

「朝鮮学報」第129輯 別刷
昭和 63 年 10 月 刊

< 하겠다 > の 研究
——現代朝鮮語の用言の mood 形式をめぐって——

野 間 秀 樹

< 하 겠 다 > の 研 究

—現代朝鮮語の用言の mood 形式をめぐって—

野 間 秀 樹

【要旨】 현대 한국어의 用言接尾辭 “-겠-” 을 가지는 終止形의 諸形式, 즉 <하겠다>의 의미와 용법에 대하여 일문어를 참조해 가면서 실증적으로 고찰한다. 논의의 전제조건은 다음과 같다. 첫째, 문장 (sentence) 은 事態을 나타내는 命題 (proposition) 와 話者의 態度를 나타내는 modality로 이루어져 있다. 둘째, 문장의 modality 와 用言의 mood 는 구별되어야 한다. 세째, modality 에는 對事態 modality 와 對聽者 modality 의 두 가지가 있다. 이상의 조건을 전제로 하여, 先行諸研究에 있어서의 二元論的인 意志=推量論爭의 矛盾點을 밝힌 후, <하겠다>가 구체적으로 어떤 의미를 실현하는지를 검토한다.

<하겠다>는 用言의 品詞가 동사인 경우 “바로 뭐뭐하려고 하고 있다／금방이라도 뭐뭐할 것 같다 (고 話者는 생각한다)”, 형용사인 경우에는 “바로 뭐뭐이다／바로 뭐뭐인 것 같다 (고 話者는 생각한다)” 는 의미가 되는 경향이 있다. 그리고 用言의 語氣의in 의미는 어떤 것인가, 意志動詞인가, 疑問形의in가, <했겠다>形인가, 主體 (主語와는 구별되어야 함) 는 話者인가 아닌가, 등등의 여부에 의하여 <하겠다>가 實現하는 의미는 크게 규정된다고 볼 수 있다. 즉, 어떤 事態를 서술하는 문장인가에 따라서 <하겠다>는 다양하게 실현되는 것이다.

무릇, ①<하겠다>는 話者를 顯在化시켜 事態를 話者의 주관적인 생각으로서 말하는 형식이다. 그리고, 금방이라도 뭐뭐할 것 같다는 임박한 성격, 절박한 성질을 “將然” 이라고 한다면 ②<하겠다>는 事態를 임박한, 將然의in 것으로서 말하는 형식이라고 할 수 있다. 이러한 두 가지 성격으로 볼 때 <하겠다>는 一元的으로 파악될 수 있다. 즉 <하겠다>는, 事態에 將然性을 인정하는 話者의 主觀的인 判斷을, 發話의 現場에 關心을 둔 채 서술하는 mood 形式이다. <하겠다>를 將然判斷 (judgement-of-imminency) 이라고 부른다면 “이미 그렇게 되어 있다／이미 그렇다”고 분명하게 단언하는 <한다>는 既然確言 (declaration-of-occurrence), 話者가 “아마 그렇다”고 해아니는 <할것이다>는 蔽然推量 (conjecture-

{ of-probability) 으로서, mood 에 있어서 서로 對立하고 있다. 이 데립은 mood 의 개념이면서도 특히 用言이 동사인 경우에는 넓은 의미의 aspect 論的인 對立의 성격도 다분히 가지고 있다.

0. はじめに

0—1. 研究の目的と対象

0—2. 問題の設定

1. 하겠다はいかに研究されてきたか

1—1. 研究の動向

1—2. 未来時制説の動向

1—3. 反時制説の動向

1—4. 日本での諸説

1—5. 諸研究の方法論的特徴

1—6. 諸研究の総括

2. modality とは何か, mood とは何か

2—1. モダリティとムード

2—2. 対事態モダリティと対聞き手モダリティ

2—3. 要素主義・形態素主義について

2—4. 意志=推量論争の混乱とモダリティの二つの平面

3. 하겠다はいかに実現されるか

3—0. 用例の分析に当たって

3—1. 去就を述べる文における하겠다

3—2. 境遇を述べる文における하겠다

3—3. 評価を述べる文における하겠다

3—4. 結局を述べる文における하겠다

3—5. 過ぎ去ったことを思いやって述べる文における했겠다

3—6. 判断を尋ねる文や反語における疑問形の하겠다

4. 하겠다をいかに位置づけるか

4—1. 하겠다とはどういいうものか

4—2. 하겠다と意志をめぐって

4—3. 하겠다の非推量性と할것이다の推量性

4—4. 하겠다の文法範疇をめぐって

4—5. 朝鮮語のムード形式としての하겠다

5. おわりに

5—1. 要 約

5—2. 残された問題

謝 詞

註

用例を引用した資料

参考文献

0. はじめに

0—1. 研究の目的と対象

本稿は、現代朝鮮語の用言接尾辞-겠-⁽¹⁾の用法と、⁽²⁾겠を持つ諸形式が実現する意味を明らかにすることを目的とする。겠についてはこれまで様々な研究がなされてきた。ここではそうした諸研究の成果を踏まえ、諸学説を総括しつつ、日本語も参照しながら、겠の具体的な用例を実証的に検討し、所与の課題を考察する。

ここで扱う対象は、⁽³⁾겠を持つ終止形の諸形式とする。

0—2. 問題の設定

考察を進めるにあたって、次のような問題を立てることができる。

これまでの諸研究については：

- (1) 하겠다をめぐる諸研究にはどのようなものがあったか
- (2) 하겠다をめぐる諸研究の論議の中心軸は何であったか
- (3) 諸研究は하겠다をどのように位置づけているか
- (4) 諸研究は何を明らかにし、何を明らかにし得ていないのか

という諸点がまず抑えられねばならない。

また하겠다を扱うにあたっては：

- (5) modality とは何か、mood とは何か

という問い合わせを避けて通ることはできないであろう。

その上で具体的・実証的に하겠다の用例が検討されねばならない：

- (6) 하겠다はどのような条件のもとでいかに実現されるか

がここでの大きな課題となろうし、また：

- (7) 하겠다は一元的に捉えうるのか、とすればその本質は何か

という問題が成り立つ。

そしてさらに用言の他の諸形式との関わりのなかで：

- (8) いわゆる「意志」とは何か、「推量」とは何か
 - (9) 하겠다と 할 것이다など他の諸形式とは何が同じで何が異なるのか
 - (10) 朝鮮語の述語の諸形式のなかで하겠다はどのような位置を占めるのか
の諸点についても考察されねばならない。
- (1)から(4)については第1章で論じ、(5)は第2章、(6)を第3章で扱い、(7)から(10)までを第4章で扱う。第5章においてはそれらを簡単に要約しておく。

1. 하겠다はいかに研究されてきたか

1—1. 研究の動向

하겠다については、前間恭作(1909)・周時経(10)など以来、多くの研究者たちが言及してきた。60年代までは時制(テンス)全般を論じるなかで하겠다にも言及するといったものがほとんどであり、하겠다それ自体を中心的な論述の対象に据えた研究は70年代に入ってからのことであった。これまでの諸研究における하겠다の規定のしかたは実に様々でありながらも、大きく二つの傾向があったことがわかる。一つは刃を未来時制の接辞と見る時制説であり、いま一つはそうした未来時制説を否定する反時制説である。

1—2. 未来時制説の動向

60年代までの諸説では、刃を時制の接辞と見るのが一般的で、とりわけ刃は「未来形」という規定を受けることが多かった。扱い方としては、하겠다が実現する様々な意味を列挙し、用法の場合分けを行なうのが特徴である。

代表的なものに、朝鮮民主主義人民共和国科学院の『조선어 문집』(60)がある。そこでは刃は「未来形」という規定を受けると共に、「未来形は、時制の意味と共に、時にはその意味よりも、意志・推測・可能性等々の、様態性の意味を非常に濃厚に持っている」とされている。こういう「様態性」への言及からも、単純な未来時制説で하겠다をくくりきれなかったことが窺える。60年代の文法書としては最も詳しいこの『조선어 문집』の記

述も、用例の場合分けの基準や原則、相互関係は不明確なものであった。⁽⁶⁾しかしその用例には、「참 떤풀 다 보겠다」(逐語訳するならば、ほんとにとんでもないざまで見ることになるな、ということで、即ち、何でわたしがこんな目に会うのだろう、ほんとにしょうがない奴だ、ほどの意味)など、韓国での後の研究でもほとんど顧みられなかった例も含まれている。用例数は少ないとはいえ、*하겠다*の実現のしかたを具体的な用例によって検討しようとするこうした姿勢は非常に重要である。

その後の共和国・中国での研究は、おおむねこの『조선어 문법』の分析を踏襲するものである。『조선말 사전』(62)・『朝鮮語実用語法』(76)・『조선어 토지식』(83)・『조선어 학사전』(84)等、今日にまで至っている。⁽⁷⁾

崔鉉培(37; 71)も一種の未来時制説であった。そこでは「未来補助語幹」・「可能補助語幹」及び「推量補助語幹」の三つの類があるとされ、さらにこれとは別に「確認補助語幹」の類・「習慣補助語幹」の類があるとされている。このように、未来時制説を採りつつも、未来時制説のみで*하겠다*を解決しきってはおらず、それぞれの用例の分類の妥当性など、問題が多い。⁽⁸⁾⁽⁹⁾

1—3. 反時制説の動向

70年代にはいると、*하겠다*の未来時制説を否定し、*하겠다*を特に取り上げて扱う本格的研究が現れた。申昌淳(72)がそれで、南基心(72)の「未確認法」説とあいまって、韓国におけるその後の*하겠다*をめぐる活発な論争の先駆けとなった。

韓国における論争のこれ以降の主要な論点は次のようにまとめることができる：

- ①*하겠다*が未来でないとすれば意図なのか推量なのか
- ②*하겠다*の文法的範疇は tense か, aspect か, mood か
- ③*하겠다*と 할 것이다との違いはどこにあるのか

第①点、意図と推量をめぐっては、申昌淳(72)が類の表す「意図」は中

心的意義である「推断」に内包されたとのに対し、徐正洙(77)は推量と意図を二分すべきだとした。その後、李基用(78)の「客観的推定」や김종태(82)の「推測」等の一元説が現れている。

第②点、文法範疇をめぐる議論では、南基心(72)の法説、김석호(74)の相説、徐正洙(77)の叙法説、김종태(82)の法説などの反時制説があった。韓国においては既にこの段階で、時制説は完全に払拭されてしまったかの感がある。

第③点、*하겠다*と*할것이다*の違いについては、徐正洙(77)(78)から本格化したと言えよう。成者徹(79)は、いずれも「推定」を表すが、現在の経験に判断の根拠をおいた推定が**것**、過去の経験に判断の根拠をおいた推定が「-을 것 이-」であるとした。また**것**の現場性、「-을 것 이-」の非現場性という貴重な指摘もなされている。また김자균(81)にあっては、**것**と「을」は一つの形態素の異形態であって、「基本的に原初的意味」は「不確実」であるとされた。

1—4. 日本での諸説

日本語で書かれた文法書においては、前川恭作(09)の「時の未来を表す助動詞」という規定を初めとして、70年代までは*하겠다*の未来時制説が主流であった。河野六郎(55)で「陳述形直説法未来」とされているほか、宋枝学(57)の「未来形」説、石原六三・青山秀夫(63)の「未来を表す接辞」説、梅田博之(76)の「未来語幹接辞」説などである。

そうしたなかで、澁谷幸利(78)の「話者の推量を表す mood」説、菅野裕臣(81)の「意思=推量形」説以降、未来時制説を否定する見解が現れはじめた。梅田博之(86)は、「英語などの時制としての未来とはちが」うので、「意志・推量を包括して話し手自身がそうだと思っていることを表す形と考え、仮りに『意思形』と呼ぶ」と述べた。さらに菅野裕臣(86)においては、新たに「蓋然性」の呼称が提起されている。とは言うものの、これらの説の多くは入門書などの一部で簡単に触れられているに過ぎず、*하겠다*自体を扱った研究は日本では一つもない状態である。

1-5. 諸研究の方法論的特徴

研究の方法論的特徴としては、特に70年代の韓国の研究者たちについて言えば、形態素に分割して奴の意味を探るという、言わば要素主義的・形態素主義的であることがあげられる。そのことは「奴は法である」とか、「奴の意味」といった述べ方に端的に示されていると言えよう。ハッカをハと奴とたとに分解してゆく 김자균(81)などはその典型と言ってよい。

また韓国の研究者たちは、ほとんどが作例のみによって議論を展開していることも特徴的である。そういう意味では、文学作品などから用例を引いて議論を進めた申昌淳(72)の方法論的意義は大きいとせねばならない。ハッカの一部の用例しか見ずに、恣意的な例文をつくって論を進めてしまうという危険からいささかなりとも免れるためには、多くの用例を具体的に検討することが有効だからである。この点から言えば、共和国や中国での研究は、韓国の諸研究よりは広範な用例の検討を行っていると言える。実は検討する用例の数という問題は非常に重要であって、1000や2000の用例を見ただけではなかなか現れない用例が意外に重要な位置を占めていることがある。できるだけ多くの具体的な言語事実の徹底した観察こそが現在の研究に何よりも必要なのである。

さらにもう、発話の前提条件などは見えなくなってしまうので、成者徹(79)も言うように、「나가 오겠다」(雨が降りそうだ)というような孤立した文だけを扱うことの危険性にも注意せねばなるまい。

1-6. 諸研究の総括

共和国や中国・日本の研究者たちの間でも非常な難問であったハッカは、特に韓国において大きな論争となつたことを見た。韓国における論争は、意志=推量論争とでも呼ぶべく、「意図」や「推測」など、呼称はどうあれ本質的には意志と推量の二極をめぐる論争に他ならなかつた。そしてまたテンス説からムード説へ、二元説・三元説から一元説へと大きく揺れ動いてゐる。ハッカと 할것이다との違いについても少しずつ核心に近づいてきてはいるものの未だ十分とは言えない。

総じて、論争は、わずかの用例を前にした抽象的な議論に終始すること

が多かった。そこには何よりも広範な具体的言語事実の観察が不足しているのである。ハッカタの本質はまだまだ解明されたとは言い難い。

これまでのハッカタの諸説については図1にその流れを要約しておく。

図1 ハッカタの研究史

<韓国>	<共和国>	<日本・中国>
●崔鉉培(37) 未来・可能・推量の補助語幹	●羅鎮錫(53) 未来時相 ●李熙昇(61) 未来・推測	●前間恭作(09) 時の未来を表す助動詞
●高永根(65)	●科学院조선어 문법 (60) 未来形 ●科学院조선어 말사전 (62) 時称と関連しつつも大概は様態的な意味	●河野六郎(55) 陳述形直説法未来 ●宋枝学(57) 未来形 ●石原六三・青山秀夫(63) 未来を表す接辞
●羅鎮錫(72) ●南基心(72) 未確認法 ●李廷攻(73・75) 様構造論	●中昌淳(72) 話者の推断 ●신기철・신용철(74) 未来・推測・可能性 ●김석득(74) 現在及び未来と関連する 推定相	●北京大・延辺大(76) 未来時制語尾 ●梅田博之(76) 未来語幹接辞 ●油谷幸利(78) 話者の推量を表すムード ●北京大朝漢詞典(78) 未来・推測可能・意志
●成者敵(76) 𠂊と을との比較 ●徐正洙(77・78) 推量と意図の叙法 ●李基用(77・78) 𠂊=客観的推量／을것이=主観的推量 ●成者敵(79) 𠂊=現場性／을것이=非現場性	●科学・百科事典 出版社(79) 時間と。未来	●菅野裕臣(81) 意思=推量形 ●梁昊淵(82) 時制の補助語幹 ●梅田博之・村崎恭
●任洪彬(80) -개 𠂊-が語源 ●김자균(81) 不確実。 𠂊と을は異形態	●李南淳(81) 𠂊=排除的判断 ●을것=包括的判断	

● 김 종 태 (82) 推測。法。意志・能力・可能性	推測・意志・可能 性	子(82) 意志・推量
● 李堦燮・任洪彬(83) 時制にあらず		● 塚本熙(83)未来
● 이 경 태 (84) 不確実な状況を根拠にした推定。 意図・強調などは統辞上もたら されたもの		● 정 만석・김 순희 (83) 時間上。未来
● 張京姬(85) 様態素。-개 생 것-		● 최 윤갑・리 세 풍 (84) 時称豆。 時制的意味と 様態的意味
● 이 선경 (86) 言述行為理論 겠고 용것이		● 早川嘉春(85) 意思・推量
● 박 우숙(87) 語用論。基本意味は不確実性。 任意の推定・任意的条件法・ 任意的意志未来の派生効果		● 梅田博之(85) 意思形。意志・ 推量
		● 菅野裕臣(86) 蓋然性の接尾辞 意図・蓋然性・ ていねいさ
		● 大阪外語大(86) 推測・意志・意図 婉曲・可能性・ 予告……
		● 三枝壽勝(86) 未来形
		● 油谷幸利(86) 推量・意志・控え 目なきもち・強い 断定

2. modality とは何か, mood とは何か

2—1. モダリティとムード

これまでの諸研究においてはモダリティ modality とムード mood という概念が非常に不明確なまま論議されることが多かった。⁽¹⁰⁾ 하겠다を見てゆくにあたっても、また一般的にも、モダリティとムードというこの二つの概念の区別は厳格でなければなるまい。

さて、一般に、文には二つの側面があることが、多くの研究者たちによって指摘されてきた。日本語を例にとれば：

雨が降るだろうね。

という文においては、極めておおまかに言ってしまえば、一方で：

〈雨が降ル〉

という事態が描かれ、他方で、そういう事態に：

〈ナルダロウネ〉

という話し手の主観的な態度が示されている。〈雨ガ+降ル〉という組み合わせによって話し手は一つの事態を構成しつつ、そのことと同時に〈ソウナルダロウネ〉という自分の態度をも示してゆく。このように、一般に文においては、話し手によって一定の対象的なことがら、即ち叙述の素材としての〈事態〉が述べられると同時に、話し手の主観的な〈態度〉もまたあわせて示されるのである。つまり：

文は〈事態〉と〈態度〉とをあわせ持っていることになる。そして上の例で事態を〈雨が降ル〉と仮に表したように、事態はとりあえず言語的に表すことができる。しばしばなされるように、ここでも、事態を〈雨が降ル〉のように仮に言語的に表したものと〈命題 proposition〉と呼び、話し手の主観的な態度を表す文法的な範疇を〈モダリティ modality〉と呼んでおく。

文 sentence	
命題 proposition 事態を表す	モダリティ modality 話し手の態度を示す

文は、およそ文である限り必ず何らかのモダリティを帯びて立ち現れる。いかなるモダリティからも切り離された、いかなるモダリティからも自由な、そういう文は存在しないと考えてよい。モダリティとは、意識的にせよ無意識的にせよ、発話の瞬間にののづから機能してしまうものだからである。換言すれば、モダリティとは、事態を描くところの命題を、話し手の様々な主観的態度で染め上げ、現実の文たらしめる不可欠の要素なのである。このことをもって、事態が内容であり態度を示すモダリティがそれ

を包んでいる、などと決めつけるのは早計であろう。むしろ文はまさに内容として事態と態度とをあわせ持っているのであるから。事態にせよ態度にせよ、いずれも話し手の主体的な営みによって紡ぎ出されるものである。⁽¹²⁾

以上述べたようにモダリティを広義に、文論における範疇として扱うのに対し、他方、ムードという概念は基本的に用言の形態論的な範疇としてのみ用いることにする。話し手のある特定の態度が、用言において形態論的に一つの形式となって、用言の他の形式とバラディグマティックな対比をなして現れるときに初めて、ムードという範疇で論ずるわけである。あるいは、ある特定のモダリティが用言の現れたのなかに形態論的に反映されているとき、ムードと呼ぶのだといつてもよい。このように考えるとムードはモダリティの一部をなすということになる。本稿ではこうした前提で論を進めることにする。



2—2. 対事態モダリティと対聞き手モダリティ

ところで、文における話し手の主観的な態度のうちには、実は大きく二つの側面があることがわかる。「雨が降るだろうね。」という文においては、一方で<雨が降る>という事態に対して<ソウナルダロウ>と判断している話し手の態度があり、他方で<ソウダヨネ>と聞き手に対して働きかけている話し手の態度がある。前者は：

事態に対する話し手の態度

が示される側面であり、後者は：

聞き手に対する話し手の態度

が示される側面である。つまり文のモダリティには、事態に対するモダリティ、即ち命題を判断するモダリティと、聞き手に対するモダリティ、即ち聞き手に働きかけるモダリティがあると考えるのである：⁽¹⁴⁾

文のモダリティ	対事態モダリティ=命題を判断するモダリティ 事態に対する話し手の態度が示される
	対聞き手モダリティ=聞き手に働きかけるモダリティ 聞き手に対する話し手の態度が示される

2—3. 要素主義・形態素主義について

現実の文においては、上にあげた二つの平面のモダリティはみごとにとけあって現れることが多い。対事態モダリティだけを示す形態素や対聞き手モダリティだけを示す形態素が常に文の中から取り出せると決めつけてはなるまい。

また、用言についてだけ言うならば、テンスやアスペクトもまた、ある形式のうちにムードとともにとけこんでいるのが普通である。例えば⁽¹⁵⁾하다という一つの形式は、⁽¹⁵⁾겠다という形式とはテンスの上の対立のなかにあるし、また⁽¹⁵⁾하고 있다とはアスペクトの上の対立のなかにあると同時に、⁽¹⁵⁾하지との対立においてはムードの上の対立を示す。こうした様々な性格が⁽¹⁵⁾하다という一つの形式のなかにとけあっているのである。⁽¹⁵⁾하다を⁽¹⁵⁾하⁽¹⁵⁾だと分解してしまうだけではこうした対立が見えてこないわけである。従って、⁽¹⁵⁾것を解明する際にも、⁽¹⁵⁾하⁽¹⁵⁾겠다を⁽¹⁵⁾하⁽¹⁵⁾だと⁽¹⁵⁾것と⁽¹⁵⁾だと分解してそれぞれの加算した値が⁽¹⁵⁾하⁽¹⁵⁾겠다となるのだとアブリオリに信じこんでいては、決して⁽¹⁵⁾하⁽¹⁵⁾겠다の本質は見えてこない。⁽¹⁵⁾하⁽¹⁵⁾겠다は⁽¹⁵⁾하⁽¹⁵⁾겠다全体として見ながら、 할것이다や⁽¹⁵⁾하다など他の諸形式と、一体どういう点で対立しているのかを明らかにしてゆくことを通じて、初めて⁽¹⁵⁾것の核心に迫ることができるのである。本稿で要素主義・形態素主義をとらない所以である。

2—4. 意志=推量論争の混乱とモダリティの二つの平面

さて、⁽¹⁶⁾하⁽¹⁶⁾겠다について、意志か推量かという形で問題が立てられてきたのは第1章で見てきたとおりである。しかしここで2—2のようにモダリティの二つの平面を設定するとき、「意志」と言われ「推量」と言われてきたものが実は同一の平面で扱われるべきものではないことが明らかになってくる。そもそも文法論における「意志」という規定のしかたは極めて

曖昧である。「意志がある」のか?「意志を認める」のか?「意志を伝える」のか?「意志を尋ねる」のか?その「意志」なるものは一体どこに位置すべきものなのかな?こう問い合わせたとき、これまで多くの研究者たちが「意志」の名で呼んできたものは実は「意志の表明」というべきものであって、話し手の聞き手に対する態度の面、即ち対聞き手モダリティの平面に属することがらだということがわかつてくる。「推量」はと言えば、事態についての話し手の判断のありかたを言うのであるから、これはとりもなおさず対事態モダリティの平面に属することがらである:

意志……対聞き手モダリティ
推量……対事態モダリティ

こうして「意志」と「推量」は、別な平面の概念であって並列させて扱うべきでないことが見えてこよう。聞き手に対して意志の表明をすることと、事態を推量して述べることとを、同一平面上における対立した概念として操作するのはやはりどこかおかしいのである。「意志」か「推量」かと二者択一を迫る問いは、そもそも問い合わせた自体が誤っていたのだとなみなさねばなるまい。後に述べるように、人は「推量」を語ることによって「意志」を表明することもできるのである。

3. ハッカドはいかに実現されるか

3—0. 用例の分析にあたって

さて第1章で見たとおり、これまでの諸研究においては、ハッカドの本質はこれこれであるという論はあっても、具体的な用例に基づいた、すべてのハッカドの用法を網羅する議論はなされていなかったし、用例の場合分けに言及した諸研究もそうした場合分けの条件が明確に提示されたことはなかった。しかしあよそ分類は恣意的であってはならず、分類の観点や条件は明確でなければならない。ここでは主に次のような点に注目し、ハッカドの用例を分類した。

ハッカドを含む文の前提条件をまず見る:

- (1) 発話の前提条件はどうなっているか

その上で述べられる命題に着目する：

- (2) 命題における行為や状態の主体は何か、話し手か聞き手か⁽¹⁷⁾
- (3) 独立を持つ用言の品詞は何か、語彙論的条件はあるのか⁽¹⁸⁾
- (4) 用言に特に以外の、いわゆる過去の接尾辞Ⅲ-ム-などの形態論的な指標を持っていないか⁽¹⁹⁾
- (5) 副詞など、他の語との共起性はどうなっているか

さらにモダリティ等の諸条件を見てゆく：

- (6) 対事態モダリティにおける 하겠다の役割は何か
- (7) 対聞き手モダリティにおける 하겠다の役割は何か
- (8) 疑問形になっているかどうか
- (9) 反語的な使われかたをしていないか⁽²⁰⁾

最後に、 하겠다以外の他の諸形式での言い替えの可能性を見る：

- (10) 할것이다·한다·하고있다·할께等他の形式で言い替えることができるか

以上である。

結局のところ、「비가 오겠다」におけるの意味は何かなどと抽象的に考えてゆくのではなく、하겠다が出現した文脈をも含めて、常に具体的な文の観察から出発するわけである。

以上のような観点から、하겠다の実際の用例を、3—1以下のようにいくつかの文の型に分類して記述していくこととする。分類に当たって、まず、疑問形は平叙形から区別することができるし、また、過去接尾辞Ⅲ-ム-を持つもの、つまり했겠다形は形態論的に特に区別することができる。疑問形とか過去接尾辞のように誰の目にも明らかなこうした指標によって、区別できる用例をとりあえず区別しておくことは、疑問形や過去接尾辞といふ他の要因による影響を受けた用例を区別して扱うことになり、分析の上でのいたずらな混乱を防いでくれることになる。よって했겠다形は3—5で、疑問形は3—6でまとめて論ずることにする。

3—1. 去就を述べる文における하겠다

3—2. 境遇を述べる文における하겠다

- 3—3. 評価を述べる文における하겠다
- 3—4. 帰結を述べる文における하겠다
- 3—5. 過ぎ去ったことを思いやって述べる文における頼겠다
- 3—6. 判断を尋ねる文や反語における疑問形の하겠다

もとより、実は、하겠다は一元的に捉えることが可能だというのがここでの立場である。従って、分類された2つの集団、あるいは3つの集団にまたがりそうな境界的な用例が存在するとしたら、하겠다の一元的把握を主張する本稿にとってはむしろ歓迎すべきことである。こうした境界的な用例こそ、大切に扱われねばならない。次節以降で明らかになるように、境界的な用例を紐帶として하겠다の様々な用法が、少しずつその条件を変えつつも互いに連なりあっていいるのだということは、いくら強調してもしきりではない。

分類が明晰である限りにおいて、一般に、分類における境界的な要素というものは、その要素の占める位置の曖昧さを物語っているのではない。こうした要素は、境界的な位置をむしろ確固として占めているということを示してくれているのである。こうした境界的な要素を境界的要素として明確に位置づけることこそ、分類の現実性を保証してくれるのである。

3—1. 去就を述べる文における하겠다

3101) “내가 사장님한테 항의 편지를 쓰겠어요. 정말 산업선교회가 그
렇게 나쁜 단체 ⁽²¹⁾냐고 말이지요.” <송효순／서울로 가는 길>

「私が社長に抗議の手紙を書きます。本当に産業宣教会がそんなに悪い団体かどうか。」

上における쓰다という行為の主体は話し手自身である。用言は쓰다という動詞、それも意志動詞である。上のような：

- ①主体は話し手自身を含む
- ②用言は意志動詞である

という条件のもとでは、文は話し手の去就を述べるものとなる。なお、

3103) や3105)などでもわかるように、主体は常に主語という形で言語の上で明示されているとは限らないことは勿論である。

話し手の去就を述べるこうした文における計けたは、どれも同じような働きを持っている。そのことを見るために、まず用例の検討から始める。

去就を述べる文では意志動詞の中でも移動動作を示す가다(行く)・오다(来る)，及びそれらを含む合成語，また分析的な形である해보다(してみる)・해주다(してやる)・해드리다(してさしあげる)の頻度が高い。

一般的な意志動詞の例から見てみよう：

3102) “제가 얼마 동안 이 전느방에 들어와서 자겠읍니다.” <洪碧初／林巨正7>

「私がしばらくの間この向かいの部屋に来て寝ます。」

3103) “공중 전화니까 용건만 말하겠다.” 범인은 매우 사무적으로 말했다. <金聖鍾／悲恋의 火印>

「公衆電話だから用件だけ言う。」犯人は非常に事務的に言った。

3104) “난 몰라. 이제 난 몰라요. 모든걸 선생님한테 맡기겠어요.” <李容燦／帽子>

「私、知らないわ。もう知りません。何もかも先生に任せしますわ。」

次に移動動作の가다・오다とそれらを含む合成語の例である：

3105) 여보, 오늘 아침 진보가 왔는데, 친정 아버님이 위독하시다는 거예요. 잠깐 다녀오겠어요. <崔仁浩／他人의 房>

あなた、今朝電報が来て実家の父が危篤なんですって。ちょっと行ってきます。

3106) “제가 이 모양으로 어떻게 인사를 해요. 손을 씻고 나오겠어요.” <金松／雛鶴>

「私がこんな格好でどうやって挨拶なんかできるんですか。手を洗ってから来ますわ。」

3107) 야모진 쟁소리를 내며 세파란 칼날들이 뿐한다. “……그럼” “매

가리를 열어 가겠다.” <고우영／林巨正 4>

かたい金属音を立て、青白い刃が抜かれる。「……では。」「首をもらって行く。」

<名詞-반다>という形式の用言も用いられる：

3108) “정 그러시다면 사장님께 직접 결재받겠습니다.” “오, 그래?

사장님과 직접 통하시겠다 그 말이군.” <이명분／창밖의 사람들>

「そこまでおっしゃるんだったら社長に直接決裁を貰います。」「お、そう。社長と直接通じようって、そういうことか。」

次に해보다など分析的な形の例を示す：

3109) “상호셀 그 천사의 운명으로 구해 보겠어요. 천사의 날개로 감싸보겠습니다.” <이명분／창밖의 사람들>

「サンホさんをその天使の運命で救ってみますわ。天使の翼で抱いてあげます。」

3110) 난 이유없이 남의 도움을 받기 싫어. 그 돈은 어떻게 하든 갚아주겠어. <이근철／불개미 4>

「俺は理由もなく人の助けを借りるのは嫌だ。あの金はどうやってでも返してやるよ。」

3111) “정 뜯 밟겠으면 따라 들어오시오. 증거를 뵈 주겠소” <崔仁浩／他人의 房>

「どうしても信じられないんだったらついていらっしゃい。証拠を見せてあげましょう。」

先に、「主体は話し手自身である」と言わずに、「主体は話し手自身を含む」と言ったのは、主体は우리のように話し手を含む複数であってもこの用法はあり得るからである。次がその例である：

3112) “너무 걱정하지 마십시오. 아이는 우리가 곧 찾아내겠습니다.”

<金聖鍾／悲恋의 火印>

「あまりご心配なさらいでください。お子さんは我々がすぐ探し出しますから。」

3113) 우리도 있는 힘을 다해서 도와주겠네. <고우영／대야망 2>

我々もありったけの力を尽くして助けてやるよ。」

さて、以上のような例は、多少の意味の差は生じても 하겠다を 함께（あるいは 할까요）や 할래（あるいは 할래요）で言い替えることができる。このことにはほとんど母語話者間の差が見られず、他の 하겠다の用法から去就を述べる文における 하겠다を区別する一つの指標になる。

ところが 할것이다や 한다との言い替えとなるとそう機械的にはつかなくなる。할것이다にすると「これからちにそうする」、「これからそうする予定だ」のような意味が強くなって言い替えにくいことが多い。하겠다の方は「今・ここでそう思っているのだ」「今まさにそうしようとしているのだ」という、発話時への関心が強いからだと言ってよい。また主体が主語の形で明示されなければ 하겠다を 할것이다にしたとたん主体が話し手であることがぼやけてしまって意志を表明するものでなくなり、話し手以外のことについての想像や将来のことについての想像を述べることになってしまふことが多い。한다にすると「今そうしている」という現在既に進行中の行為を表す意味が強くなったり、「いつもそうしている」という習慣的な行為を表す意味になったり、あるいはまた話し手の思いを離れて客観的に述べることとなってしまったりして、これもやはり言い替えにくいものが多い。한다で言い替え得るものでも文末を引き伸ばすなど、特殊なイントネーションを加える必要がしばしば生じる。いずれにせよ 할것이다や 한다との言い替えには母語話者間の差が大きくなり、母語話者が判断に迷うものが増えてくる。

こうして観察してゆくと、次のようなことがわかってくる：

①한다や 할것이다と違って 하겠다には「今まさにわたしはそうしようと思っているのだ」という、話し手のかなり切迫した態度が現われている。

「今まさにしようとしている」という、⁽²⁶⁾ 将然的な性格を持っているのである。

②客観主義的・描写的に述べるのではなく、하겠다は話し手の存在を頭在化させ、去就が話し手自身の主観的な意志なのだということを明確にする。

要約するなら：

話し手自身の去就に関する事態を将然的なものとして判断しつつ(対事態モダリティ)、聞き手に対して話し手の今・ここでの意志であることを明確に表明する(対聞き手モダリティ)、そういう述べ方である。言うならば将然的な意志の表明である。

であるからこそ하겠다は할것이다のように予定的なものとも相容れないし、한다のように既に進行中のやうなものや習慣的なものとも相容れないものである。

これがこれまでの諸研究で「意志」で呼ばれてきた하겠다に該当する。

また去就を述べる文における하겠다は、次のように強く言い放って決意の表明・宣言とも言うべき働きをさせることもできる：

3114) 톰·라이스는 옛날의 복서……현재 뛰고 있는 1류의 헤비급 권투선수와 싸우겠소! 싸워서 당당히 이기겠소! <고우영／매야망 2>
トム・ライスは昔のボクサー——現在暴れ回っている一流のヘビー級ボクサーと戦います！闘って堂々と勝ちます！

さて、意志を表明する用法は、以下に見るような用例を境界的な例として次節3—2の境遇を述べる文や3—4の帰結を述べる文における用法に連なって行く。

3115) “내 잘못했소, 용서하오.” “용서 못하게어요.” <河有祥／生活記>

「俺が悪かった、許してくれよ。」「許せませんわ。」

3116) “나는 죽어도 못 나가겠어요.” <洪碧初／林巨正 2>

「私は死んでも出て行けません。」

これまでの諸研究では上のような用例が論議に上ることはほとんどなかったし、「意志」の例として扱われることはなおさらなかった。上の例が、不可能を示す副詞吳と響きあいながら話し手の強い意志を表明していることは疑い得ない。母語話者の認識でもこの点では個人差がない。そうでありながら上の二つの例では~~ハッキタ~~を~~ハッキタ~~で言い替えることはできない。「できない」という不可能の意味を示す吳が~~ハッキタ~~と共に起しにくいかからである。同時にまたこれらは、話し手の境遇を訴えるものと考えることもできるし、「そういうことにならない」と、ことの帰結を表していると考えることもできる。言わば意志を表明する用法と他の用法とに大きくまたがった位置にある例である。「意志の~~ハッキタ~~」などと、意志を表明する~~ハッキタ~~の用法を全く別のものとして~~ハッキタ~~の他の用法から切り離し、「意志か推量か」などと機械的な問題の立て方をしていると上のような用例が視野に入らなくなってしまう。こうした用例の存在は、「意志の~~ハッキタ~~」のみを他の用法から切り離してしまうことへの警鐘ともなっているのである。なお、この吳と共に起するものの多くは、「용서 못해요」や「나는 죽어도 못 나갑니다」のように、~~ハッキタ~~では言い替え得るのに反し、~~ハッキタ~~だと推量的な言い方になってしまって言い替えにくい。

(27) ここで今度は遂行動詞に近い用言に~~ハッキタ~~が用いられた例を見たい：

3117) “경찰관 집에서 도둑을 맞다니 뭘 말이오? 좀 문단속을 철저히 하도록 해요!” “명심하겠읍니다.” <河有祥／生活記>

「警察官の家が泥棒にあうなんて話にならんよ！もう少し戸締まりを徹底するようにしたまえ！」「肝に銘じます。」

3118) “내 훈시를 들어요, 훈시를……반네 정신 팔리지 말구.” “네,
주의하겠읍니다.” <河有祥／生活記>

「私の訓示を聞きたまえよ、訓示を……よそに気をとられないで。」「はい、
注意します。」

こうした例では、意志の表明という性格より念押しや誓いといった性格も現れてくる。한다や 할것이다では言い替えにくい。どれも 함께では言い替え得る。

遂行動詞に近いもので次のような半ば挨拶化した言い回しにも 하겠다が用いられる：

3119) 데인! 잠시 실례하겠습니다! <방학기／감격시대 1>

「大人! ちょっと失礼します。」

韓国では、近年、「いただきます」にあたる挨拶として学校などでは「잘 먹겠습니다」と言わせている。これも意志の表明をする用法に入れておいてもよいであろう。これを下称形で言ったのが次の例である：

3120) (餅を奪って食べはじめつつ) 잘 먹겠다. <고우영／林巨正 4>
「頂戴致す。」

先の「용서 끗하겠어요」などの例と共に、以上あげたような遂行動詞に近い用言に用いられた一群によって、意志を表明する用法は、次節・境遇を述べる文における하겠다へと大きく連なって行くのである。

3—2. 境遇を述べる文における하겠다

前節で述べたように、意志を表明する用法は、명심하다・주의하다など遂行動詞的な用言に用いられた一群を紐帶として、話し手の境遇を述べる文における하겠다のこの用法へと連なってきてている。同じような遂行動詞的な用言ではあっても 함께で言い替えにくい用例は意志を表明するものとして扱わず、ここで扱うことにした。しかしいずれにせよ境界的な例であることは間違いない。例を見よう：

3201) “잘 부탁하겠습니다.” 김 상무는 정중하게 허리를 굽혔다. <金聖鍾／悲恋의 火印>

「よろしくお願ひします。」金常務は丁重に御辭儀をした。

3202) “처음 뵙겠습니다. 조미영이라고 해요.” <이명분／창밖의 사람 들>

「初めてお目にかかります。チョ・ミヨンと申します。」

3203) “제발 그렇게 되기를 바랍니다. 계속 좀 부탁합니다.” <金聖鍾／悲恋의 火印>

「どうかそなへんことを望みます。引き続きよろしくお願ひします。」

先に、 명심하다·주의하다の例は하였다のかわりに한다で言い替えると不自然になることを述べた。ところが上の三例は할것이다で言い替えることはできないが「잘 부탁합니다」・「처음 뵙습니다」・「그렇게 되기를 바랍니다」のように한다で言い替えることはできる。最後の例は「바라고 있습니다」のように하고있다とも言い替え得る。そういう言い替えの可能性からもわかるように、ここにあげた例はどれも「これから先にそうする」ということを述べているのではない。このことは하였다の未来時制説を覆すに十分な例証となる。

境遇を述べる文における하였다も、聞き手に対して話し手を顕在化させりという点・事態を将然的に述べる点では去就を述べる文と同様である。「처음 뵙겠습니다」(初めてお目にかかります)などにそのことがよく現れている。自分が相手に初めて会うという事態を、「처음 뵙습니다」つまり한다のように「今既に会っている」と直接的・描写的・客観主義的に述べるのではなく、하였다は、「わたしが思うところでは、わたしはまさに今お目にかかるうとしているのだ」と、事態を将然的なものと見るという話し手の主觀を打ち出して述べるのである。どこまでも話し手による主觀的な判断であると、話し手自身が限定する述べ方は、直接的・描写的・客観主義的な述べ方に比べると、ある点では、はるかに謙虚であり、婉曲的である。ئのある文の方がない文に比べてしばしば「丁寧」な感があるとされるのは하였다のこうした述べ方によるものである。単に「頼む」ではなく、「まさに今わたしは頼もうとしている」、「まさに今お目にかかるうとしている」、そういう述べ方なのだと言ってよい。「まさにあること

をしようとこのわたしがいる」「わたしはまさにこういう境遇にいる」と将然性を認めつつ、そしてそれは「どこまでもわたしの思うところなのだ」と話し手の判断であることを明示するのである。

하겠어の文のこうした読み方でこれまで引用した例を読み直してみるなら、3-1の用例も含めて、すべてにこうした読み方が可能なことがわかるであろう。「他ならぬわたしの思うところでは、わたしはまさにそうしようとしているのだ」と述べることは、とりもなおさず意志の表明そのものなのであるから。

さて、ここでこの境遇を述べる文における하겠어について整理しておこう：

今・ここでの話し手自身に関する事態を将然的なものと捉え（対事態モダリティ）、聞き手に話し手の何らかの態度を伝えたり訴えたりする（対聞き手モダリティ）。

事態が境遇的なものとなるためには次の点が必要である：

①用言が話し手の意志で左右できない非随意的な性格を帶びていること、

②主体は話し手自身を含んでいること、

以上である。先の、去就を述べる文から、用言の非随意性が濃くなればなるほどこの用法へと近づいてくる。①上で見た遂行動詞群、②副詞吳と共に主体に不利なありかたを述べる用言、を境界的な例として、③알다（知る・わかる）・모르다（知らない・わからない）など話し手の認識のありかたを示す動詞、④죽다（死ぬ）・쓰러지다（倒れる）・미치다（狂う）など主体にとって特別な動作・状態、とりわけ主体に不利な動作・状態を示す用言⁽²⁹⁾、などがその例となっている。どれも、今・ここでの話し手自身のありかたを述べるものである。この用法に見られる動詞を境遇動詞と呼べるかもしれない。

副詞吳を用いた例もまた遂行動詞群と並んで意志を表明する用法との紐帶の役割を果たす。前節あげた「용서 吳하겠어요」（許せませんわ）などの例に連なるものである。副詞吳の、不可能を示すという働きによって

意志動詞の隨意性・自制可能性が相殺されてしまったのだと考えられる。用例を検討しよう：

3204) (일어서며) “가겠오. 더 이상 못참겠으. 그 집이 혈린것도 충격인데 당신까지 그러는건 못참겠으.” <金淑賢／毎 善， 그 소리>

(立ち上がりながら) 「行くぞ。これ以上我慢できないよ。あの家が潰されたのだって衝撃なのに君までそうなのには我慢できんよ。」

3205) “그럴까요?……그런데……지금 조용하니까 아주 말씀드려야 되겠는데……마음의 결정을 짓지 않구는 이젠 못 전디겠어요.” <李容燦／帽子>

「どうでしょうか?……ところで……今、落ち着いているからすっかりお話ししなければならないのに……気持ちを決めてしまわないともう耐えられません。」

3206) “나는 더 못 먹어요.” “이것 한 잔만.” 하고 사나이가 술잔을 들어 입가에 대어 주었다. “못 먹겠어요. 정말이에요.” <洪碧初／林巨正2>

「私はもう飲めません。」「これ一杯だけ。」と男が杯をもって口許へ持ってきた。「飲めませんよ。本當です。」

3207) (よその女性に気をとられている連れの男性を見て) 정말 못 봐주겠군. <이근철／불개미 2>

ほんとに見てられないわね。

どれも話し手に関する事態を述べながら、聞き手に話し手の態度や感情を訴えるものとなっている。「못 참아요」と한다で言えば「そういうことは一般的に、あるいはいつだって耐えられない」という一般的・客観的な述べ方になるのに反し、「못 참겠어요」と하겠다で言えば「今・ここでわたしが思うには、そういうことはわたしには耐えられないんですよ、わたしは耐えられそうにありません」と話し手を顕在化させながら述べことになるのである。さていま一つ못と共に用いられた例を見てみる：

- 3208) “물으시는 뜻을 잘 알지 못하겠읍니다.” <洪碧初／林巨正 2>
 「お尋ねになっている意味がよくわかりかねますが。」

このような例まで来れば、次の例とのつながりが容易に察せられよう：

- 3209) 뭔가……뭔가 말야. 내가 해야 할 일이 있지 않을까. 하지만……
 난 그걸 아직도 모르겠어. <입월우／同行>
 何か……何かね、私がしなきゃならないことがあるんじゃないかな。だけ
 ど……私はそれがまだわからないんだ。

- 3210) 뭘……뭘 내놓으라는 거야? 왜 이러는거야? 영문을 모르겠군!
 <방학기／감격시대 5>

- 何を、何を出せってんだ?何でこんなことするんだ?わけがわからんな!
 3211) (갑자기 소녀처럼) “선생님이 그만두라고 하신다면 언제든지……
 (사이) 선생님이 미국에 계시던 동안 저는 선생님이 돌아오시면 그만두
 려니 했어요.” “그건 또 왜?” (무슨 말을 하려다 말고) “모르겠어요!”
 (하여 일어서서 옆방으로 급히 가려 한다) (냉철하게) “미스 정!” <車
 凡錫／성난 機械>

- (急に少女のように) 「先生が辞めろとおっしゃるのならいつでも……
 (間) 先生がアメリカにいらっしゃってた間、私は先生がお帰りになつたら自分も辞めるだろうと思ってたんです。」「そりやまたどうして?」(何
 か言おうとするがやめて) 「知りませんわ!」(と立ち上がって隣の部屋
 にそそくさと行こうとする) (冷徹に) 「鄭さん！」

これらが境遇を訴える用法の典型的な一群である。さらに同様の例をあ
 げておく：

- 3212) “나도 뭐가 뭔지 잘 모르겠어. 단지……” <朴景昌／버림받은
 同族>
 「私も何が何だかよくわからないわ。ただ……」
 3213) “그야 물론 김상무이지. 표나지 않게 조용히 데려다가 심문해.”

“알겠읍니다.” <金聖鍾／悲恋의 火印>

「そりゃもちろん金常務だよ。目立たないように静かに連れてきて訊問しろ。」「わかりました。」

3214) “아까 그곳에서 무얼하고 있었지?” “……” “말 안해도 대강은 알겠다.” <우호／용이라 불리우는 사나이 2>

「さっきあそこで何してたんだ?」「……」「言わなくてもだいたいはわかる。」

話し手の認識のありかたを示す例は 없다・모르다の他にはあまり用例が見当たらない。⁽³⁰⁾ただし出現頻度の点では、하겠形で用いられるすべての用言中、この二つ、とりわけ모르다の頻度が最も高い。⁽³¹⁾さて、「안다」と言えば「いろいろ考えるまでもなく既にもう知っている」という既然的な述べ方になるし、「알겠다」と言えば「わかる、わかる」あるいは「わかりそうだ」という切迫した、将然的な気持ちを述べることになる。同じ「알다」という動詞でも日本語で言えば⁽³²⁾한다形だと「知る」もしくは「知っている」になることが多く、하겠形だとまず間違いなく「わかる」になるのも面白い。なお、「처음 뵙겠읍니다」などと同様、こうした하겠も「婉曲」や「丁寧」と捉えるむきもあるけれども、それは当たらない。「모르겠다!」と強く言い放てばそれはもう婉曲とも丁寧とも言えないことを見れば明らかであろう。既然的に述べずに将然的に述べることがたまたま婉曲的な機能を果たすことがあるというだけなのである。

さて話し手に何かしら特別な事態、とりわけ話し手に不利な事態の例はこの境遇を訴える用法の一つの典型をなす。同時にこれらは3—3の評価を述べる文や3—4の帰結を述べる文における하겠へと連なるものもある：

3215) “차야 빨리 가자 빨리 서울 좀 데려다 다오. 오줌 마려워 죽겠구나” 향속이의 말이었다. <송효준／서울로 가는 길>

「こら車、はやく走ってよ。はやくソウルに連れてってよ。おしっこしたくて死にそうよ。」ヒャンスギのことばだった。

3216) (電話で) “오! 삽들라……몸은 괜찮은가?” “몸은 별일 없는데
가슴 속이 아파 죽겠소.” <고우영／데야방 2>

「おお、サプトラ……体は大丈夫か?」「体は平氣なんだが胸が痛くて死
にそうだよ。」

3217) “기계야, 10분만 고장이라도 나럼. 나 죽겠다 기계야. 네가 내
사정 알아주겠니. 부탁이다. 날 살려다오. 10분만 고장이라도 나라” 나
는 속으로 떨었다. <송효순／서울로 가는 길>

「機械ってば、10分だけでいいから故障にでもなってよ。私、死にそうな
の、機械ってば。お前に私の気持ちわかる? お願いよ、私を助けて。10
分だけ故障してよ。」私は心の中で祈った。

ところで、次の例でわかるとおり、죽다(死ぬ)という動詞を죽겠다形
にした죽겠다という形が常に境遇を訴える用法とは限らない:

3218) 죽여다오! 죽여주지 않으면 내가 죽겠다! <방학기／감격시대
6>

殺してくれ! 殺してくれなきゃ俺が死んでやる!

この3218)では「俺が死ぬぞ」という話し手の強い意志が表明されている。同じ죽다という動詞でありながら、一方は意志動詞であり(3218)、一方は意志動詞ではない(3215~3217)。こうした例は、我々が言語を分析するうえで非常に重要である。形態論的な見地からのみ意志動詞かどうかを規定し、命令形を持つものは意志動詞、意志動詞は죽겠다で意志を表す、などと機械的に展開してゆくと上のようないかん語事実を見逃すことになってしまうからである。죽다という一つの要素は常に変わらぬAという意味を持っていて、겠というBの意味を持った要素と結合して죽겠다となるとA+Bという意味を持つ、と考えるのは誤りなのである。こうした要素主義・形式主義は、先にも述べたように、いつの間にか言語研究者たちの手続きの中に忍びに入る。我々は考え方の方便としてさえも受け入れるべきではあるまい。意味を持った要素が加算されたものが全体の意味なのではな

く，要素は全体の中で初めて意味となるのである。

ところで，主体が第三者であれば，ここで見たような境遇動詞を 하겠다形では用い難いことは興味深い。特に遂行動詞群や話し手の認識を表す動詞などではそうである。つまり「(わたしが思うには) あの人は何々しそうだ」という意味で「그 사람이 처음 뵙겠습니다」とか，「그 사람이 알겠읍니다」・「그 사람이 모르겠다」などとは言えない。こういうときは 하겠다ではなく「그 사람이 알 것입니다」のように 할것이다か，あるいは 할것 같다を用いるのが普通である。

さて，話し手にとっての何かしら特別な事態を扱うこの 하겠다は次のような例と連なっていることが容易に察せられよう：

- 3219) “우리가 제일 불리하겠는데요.” <金聖鍾／悲恋의 火印>
「我々が一番不利そうですね。」

主体は話し手を含んでいる点では今まで述べた用例と変わらないが，用言が形容詞である点でこれはもう次節 3—3，評価を述べる文における 하겠다なのである。

3—3. 評価を述べる文における 하겠다

하겠다の用言が形容詞の場合は話し手の主観的な評価を示す用法となる。事態を客観的に「これこれだ」と述べるのではなく，「私が思うにはそうだ」「私が思うには，まさにこれこれでありそうだ」という態度である。こうした述べ方によって時には話し手の願望を表したり聞き手にそれとなく促したりといったことにも用いられる。これらはいずれも事態の主体を問わない。主体が話し手であれ何であれ，すべて話し手自身の判断に基づく評価を述べることになる。

次を持たない次のような例と比べると 하겠다の性格は鮮明になる：

- 3301) 영자 (英子) 는 심심하다. <崔仁浩／바보들의 行進>
英子は退屈だ。

ここでは主人公英子をめぐる事態は極めて客観主義的・描写的に述べられているだけで話し手の姿は見えてこない。しかしこれを³³⁾ハッキナにしたとたんに話し手である作者の顔が見えてしまう：

3302) 영자 (英子) 는 심심하겠다.

英子は退屈そうだ。

こちらは、話し手である作者の思うところでは退屈であるようだと述べていることになる。いとも鮮明に作者の主観的な評価であることが示されてしまう。このゆえに、例えば小説の地の文などではハッキナで終わる文はほとんど用いられないものである。⁽³³⁾3301)は短編連作小説の書き出しである。これをハッキナにしないことによって初めて、「退屈だ」というのは作者の主観的な評価ではなく、あたかも客観的な事実であるかのように読者に読み取らせることができる。作者が英子という主体の中に言わば憑依することが可能になるのである。英子が話し手化するわけである。そうであるがゆえに 3301) の書き出しへ次のように展開することができた：

3303) 영자 (英子) 는 심심하다. 심심해서 죽겠다. <崔仁浩／바보들의
行進>

英子は退屈だ。 退屈で死にそうだ。

この「심심해서 죽겠다」は前節で述べた境遇を訴える用法である。主体が英子であるにもかかわらず境遇を訴えることができるのは、先行する「영자는 심심하다」という文によって英子の中に話し手が入り込んだからなのである。こうしたレトリックが可能になるためには「심심하다」は「심심하겠다」であってはならなかったのである。「영자는 심심하겠다.
심심해서 죽겠다.」では、話し手が作者と英子の二人に分裂してしまって二つの文の連結がおかしくなってしまう。

これまで述べてきたようにハッキナはどこまでも話し手の主観的な評価であることを示すのであるからその評価の客觀性には拘わりがない。「영자

는 심심하다」と言えば英子は必ず退屈なのでなければならないのに反し、「영자는 심심하겠다」では英子が実際に退屈かどうかについて話し手の責任はない。

ここでわかるように、 하겠다は実際に退屈かどうか確認していないことを述べるのに重点があるのではなく、 退屈なのだとむしろ主観的に確認してしまっているところに重点があるので、 「未確認法」⁽³⁴⁾の呼称も適切ではない。

さらにまたこの用法の하겠다は「推量」ではないかと断ずるむきもあるかもしれないがそういう考え方も本稿ではとらない。このことについては第4章で述べることにして、 ここは先を急がねばならない。

3304) “빨리 끝내고 가는게 좋겠어.” <이근철／불개미 3>

「はやく終えて帰るのが良さそうだな。」

これが評価を述べる文における하겠다の代表的な例である。用言が動詞の場合に見られた切迫性・将然性は、用言が形容詞の場合にも、形容詞的なかりかたなりに貫徹していると言ってよい。「既に良いとされている」とか「一般的に良いのだ」と言うのではなく、今・ここでの話し手の考えでは「まさに良さそうだ」「きっと良いのだよ」「良いに違いない」と述べるのである。事態を将然的なものと見る하겠다の性格はここでもやはり貫かれているのである。

この用法では、用言としては、上にも見えるように、①形容詞のなかでも 좋다(良い)・낫다(<比較した上で>良い)のような評価形容詞の頻度が高い。②좋다を用いた形式では 하면 좋다 (すれば良い)・하는 것이 좋다 (するのが良い)・했으면 좋다 (したら良い)が頻出する。③하고 싶다(したい)もここに入る。また、④있다(ある)・없다(ない)・안 되다(だめだ)など存在詞および形容詞的性格の強い動詞、⑤存在詞を用いた分析的な形할수있다(することができる)・할수없다(することができない)もこれである。さらに⑥해야하다(しなければならない)・해야 되다(しなければならない)・해야겠다(しなければ)のような一連の分

析的な形もこれであり、⑦라고 하다（と言う）などの引用の形式や、⑧畢竟と共に起するものもこの一種である。どれも何ごとかについての価値判断や評価を述べる文であると言えるであろう。

例を見てゆくことにする。まず形容詞に用いられた例である：

3305) “제발 나와요. 거긴 춥잖소. 오늘 아침엔 서리까지 왔더던데, 나 때문이라면 자리를 바꿀시다. 내가 거기에 가있는데 낫겠오.” (가려 한다.) <金淑賢／ 먼 빛, 그 소리>

「どうかこっち来いよ。そこは寒いじゃないか。今朝は霜まで降りたってのに、僕のためだって言うんなら場所を取り換えよう。僕がそっちに行ってるほうが良さそうだ。」

3306) “이사람 말이 옳다. 너희들은 다 가는 것이 좋겠다.” <洪碧初／林巨正2>

「この人の言う通りだ。お前たちは皆去るのが良さそうだ。」

3307) “일년에 한 번이라도 좋겠다. 왜 와 주지 못하느냐 말이다.” <朴景昌／버림받은 同族>

「年に一度だっていいんだよ。何で来てくれないのかってことなんだよ」

3308) “애기가 기어다니고 무엇을 불잡고 일어서고 할 때가 더 어렵겠네요. 가만히 누워서 벼둥거릴 때보다, 그렇죠?” <鄭然喜／蘭芝島>

「赤ちゃんが這い回って何かつかんで立ったりする時がもっと大変そうですね、静かに横になってばたばたしてる時よりも。でしょ？」

3309) “이때 여잔지 참 습막하게 행복하게군요.” <金淑賢／먼 빛, 그 소리>

「どんな女の人が知らないけど、ほんと息が詰まるほど幸せそうですわね。」

3310) “언니야 내리자. 내려서 걸어가는게 빠르고 덜 춥겠다. 오줌이라도 누었으면 좋겠다.” 눈물을 글썽이며 울려고 했다. <宋효준／서울로 가는 길>

「姉さん、降りようよ。降りて歩いて行くほうが速いし、まだ寒そうじゃないよ。おしちこできたらいいな。」涙をいっぱいに浮かべ泣こうとした。

次に主体が聞き手の例をあげる：

3311) “학교 간 애가 다섯 시간이 지나도록 집에 돌아오지 않는 것은 확실히 좀 이상해.” 그는 중얼거리면서 직원들을 들려보았다. “네, 어서 가 보십시오. 걱정되시겠습니다.” <金聖鍾／悲恋의 火印>

「学校に行った子が5時間もたつのに家に帰りつかないのはどうみてもちょっとおかしい。」彼は呟きながら職員たちを見回した。「ええ、どうぞ行ってごらんになってください。ご心配ですね。」

3312) “그럼 단 세식구인데 적적하시겠습니다.” “한 일이 너무 많아서 적적한 것은 모릅니다.” <尹伊桑·장행훈／나의 음악 나의 조국>

「ではたった3人家族ですがお寂しいでしょう。」「することが多すぎて寂しさなんかわかりませんよ。」

3313) “여러 집을 돌아다녀야 합니다.” “이렇게 종일 걸어다니려면 힘들겠수.” <吳貞姬／銅鏡>

「たくさんの家を回らなければなりません。」「こんなに一日中歩き回るんだと大変だろうね。」

用言が評価形容詞の場合は 3306) などのように한다でも 할것이다でも言ひ替えがきくことが多い。しかし上のように主体が聞き手の場合は、 할것이다でも言ひ替え難いし、 한다で言い替えることはまず不可能である。한다では、わかるはずのない聞き手の心情などを客観主義的・描写的に述べることになってしまい、不自然な文になるからである。こういう場合はやはり褂けだを用いて話し手の一方的な判断であることを明示しておかねばならないわけである。

主体が話し手と思われる例もあげておく：

3314) 앗! (と倍達がアーサーのふとももに蹴りを入れる) 呼! (アーサーは) 허! (と左のふとももをおさえて) 무서운 발길질이다. 다리 신경이 마비될 것 같군…… (と倍達と距離をおきながら) 가까이 접근하면 위험하겠다. <고우영／데야망 2>

ヤア！バグッ！ウウッ 恐ろしい蹴りだ。脚の神経が麻痺しそうだ……近くに寄ると危ないな。

次は하고싶다（したい）の例である：

3315) “청미가 언필도 주고……지우개도 주고……색종이도 주고 그랬어요.” “그래? 넌 무얼 줬지?” 민기는 고개를 힘 없이 저었다. “음, 그래. 좋아. 너 청미 보고 싶겠구나?” 소년은 끄덕였다. <金聖鍾／悲恋의 火印>

「チョンミが鉛筆もくれたし……消しゴムもくれたし……色紙だってくれたんです。」「ほお。で、君は何をあげたのかな？」ミンギは首を力なく振った。「うん。よし、わかった。君はチョンミに会いたいだろうな。」少年はうなずいた。

存在詞、形容詞的な動詞、及び存在詞を用いた分析的な形 할 수 있다（することができる）・ 할 수 없다（することができない）の例を見る：

3316) 고압선은 걸고 있는 우리들의 머리 위를 엇비슷이 지나고 있었다. 그뿐이라면 별로 문제가 될 것이 없겠다. 그러나 그 고압선은 바로 우리가 사고자 하는 집의 지붕 위를 거쳐서 덜리고 있었다. <趙善作／高壓線>

高圧線は歩いている私たちの頭上を斜めに通っていた。それだけならとりたてて問題になるようなことはないだろう。しかしその高圧線は、ちょうど私たちが買おうとしている家の屋根の上を横切ってかかっていた。

3317) 이놈……아뢰겠구나. 막로 잘해서 돌려 보내려 했더니…… <우호／용이라 불리우는 사나이 2>

この野郎……ためだな、こりゃ。うまく言って聞かせて追い返そうと思ったのに……

3318) 그렇군요. 방뇨에는 증거가 있겠군요. 방뇨된 오줌과 제 오줌을 국립과학연구소에 의뢰해 조사하면 알 수 있겠군요. <이근철／불개미

1>

そうですね。放尿には証拠がありますよね。放尿された尿と私の尿を国立科学研究所に依頼して調査すればわかりますね。

3319) “정말로 민중의 가슴팍에서 나오는 노래라야 세월이 지나도 살아남을 수 있겠습니다.” <황병기·조영남／민중의 에네르기에서 나오는 노래들>

「本当に民衆の胸の底から出る歌こそ歳月が過ぎても生き残れるでしょう。」

3320) “그렇다면 대중음악은 무조건 저급한 음악이라고 말할 수 없겠군요.” “그렇지요.” <황병기·조영남／민중의 에네르기에서 나오는 노래들>

「だとすると大衆音楽を無条件に低級な音楽だと言うことはできないでしょうね。」「そうですね。」

해야겠다（しなくては）の形式では歎を抜くことはできない。また、頻度も高い：

3321) 자! 이제 기운이 나는구나! 빨리 쫓아가야겠다. <고우영／林巨正 4>

さあ、やっと元気が出たぞ。急いで追いかけなくちゃ。

3322) (조용히 모자를 벗어놓고 일어서면서) 난 들어가서 좀 쉬어야겠어. <李容燦／帽子>

(静かに帽子を脱いで立ち上がりながら) 私は帰ってちょっと休まなくては。

3323) 연락도 없이 불쑥 나타나 우선 사과부터 드려야겠습니다. <이명분／창밖의 사람들>

連絡もなしに急に出てきて、まずお詫びしなければなりません。

引用の形式に하겠다を用いた例には次のようなものがある：

3324) 식물은 여러가지 방법으로 양분을 섭취하고 있지요. 광합성이나 식충식물이 하는 일도 그 중 하나라고 하겠습니다. <최준철／식물의 연구>

植物はいろいろな方法で養分を摂取しているのです。光合成や食虫植物が行なうこともそのうちの一つだと言えるでしょう。

3325) 그러나 자식에게 학비를 주어 공부를 시키고 용돈이나 주는 것이 부모의 애정이라고 생각한다면 그야말로 애정에 대한 인식부족도 이만저만이 아니라고 하겠다. <鄭飛石／愛情不在>

しかし子供に学費を与え勉強させ、小遣いなりと与えるのが親の愛情だと考えるなら、それこそ愛情に対する認識不足もはなはだしいと言えよう。

上の3325)などは「인식부족도 이만저만이 아니라고 하겠다」と強く決め付けているのであって、ここでも婉曲とか推量と呼べるようなものではないことがわかるであろう。むしろ断定的に述べているのである。

3326) 이렇듯 식물은 제각기 알맞은 방법을 택해서 종족을 번식시키려고 노력하고 있습니다. 생물의 서비스려운 능력이라고 하겠습니다.

<최준철／식물의 연구>

このように植物はそれぞれに適した方法を選んで種族を繁殖させようと努力しています。生物の神秘的な能力であると言えましょう。

以上のような라고 하겠다の形式がどこまでも話し手自身の評価であることに注目したい。このことは刃を除いて라고 한다で言い替えてみるとよくわかる。한다にしたとたん、話し手の主観的な評価であることを離れて、「と言う」ことが既に事実であることになってしまう。すぐ上の例で言えば：

3327) 식물의 서비스려운 능력이라고 합니다.

植物の神秘的な能力だと言います。

とすると、これでは既に世の人々がそう言っているということになる。なお「세상 사람들이」(世の人々が)などの主語を入れても 하겠다は相変らず話し手の評価を示している。次の例で見てみよう：

- 3328) 그런 짓을 하면 세상 사람들이 너를 바보라고 하겠다.
そんなことをしたら世の人々がお前のことを馬鹿だと言うぞ。

相変らずこれは話し手自身の主観的な判断であり、評価であることがわかる。

ここでも、先の 심심하다의例と同じく、世の人々が実際にそう言うかどうかは関係がないのである。「인식부족도 이만저만이 아니라고 한다」でも同様で、한다では既に誰かがそう言っていることになってしまう。「인식부족도 이만저만이 아니라고 할것이다」と、 할것이다で言えば誰かがおそらくそう言うだろうと、話し手が推量して述べることになる。

次に 𠂊と共に起する하겠다の例を見る：

- 3329) (道化の化粧を公衆便所でおとしている主人公を通行人が見ながら)
별 미친 너석 다 보겠군. <이근철／불개미 1>

그런데도 불구하고 그만한 여인은 있는 거지.

- 3330) “네가 어떻게 그런 걸 빌써 다 아느냐?” “돈을 빌어 가면서 공부한 거예요.” “별 소릴 다 들겠구나. 누가 너한테 돈 줘가며 그런 것 공부시켜 주더냐.” <鄭然喜／蘭芝島>

「お前が何でそんなことまでもう知ってるんだい?」「金を稼ぎながら勉強したんだよ。」「とんでもないことと言ってくれるね。誰がお前に金をくれてそんなことを教えてくれたって言うの。」

- 3331) “질구경이란 게 다 무어야. 별놈의 소리를 다 들겠구나.” <洪碧初／林巨正7>

「外の見物って一体そりゃ何だ。変なこと言ってくれるね。」

上の三つは「とんでもないことまでわたしが見る／聞くことになったな」ということで、強い評価を述べると同時に、帰結を述べているとも言えるし、話し手の境遇を訴えているとも言ってよく、大きくまたがった用例だと言えよう。これらは境遇を述べる次のような例を介して3—2の「처음 봄겠습니다」(初めてお目にかかります)などの用例に連なっていることがわかる：

- 3332) “당신 같은 사람은 처음 보겠습니다.” <金聖鍾／非恋의 火印>
「あなたのような人は初めて会いますよ。」

さて、～하겠다、～하겠다、……という形式がある。話し手の評価を述べながら次に結論を述べる際に用いられる。必ず何らかの結論の前提部・根拠部として用いられ、また하겠습니까や하겠어요など하겠다以外の形式では用いられないことからもわかるように、完全な終止形とはいひ難く、むしろ接続形の一種と考えたほうがよい。多くの研究者たちが終止形として取り扱っているようなので、ここで特に取り上げておく仕儀となった。この形式は～하겠다、～하겠다、というように、하겠다がしばしば2回以上続けて用いられる。いずれにせよこの後ろに話し手の価値判断が結論として述べられる：

- 3333) “또나?” “미안해요.” “키 크겠다, 직장 투튼하겠다, 정치 그만하겠다, 뭐가 또 ‘역시’ 하게 하더냐?” “엄마, 군쎄, 다리를 벌고 있잖아. 다리를 벌면 복을 더는 거라며?” <임국희·우종범 역음／바구니에 가득 찬 행복 3>

「またかい?」「ごめん。」「背も高いし、職場だってしっかりしてるし、体格も悪くないし、何だってまた『やっぱり』なんだい?」「母さん、だってね、貧乏ゆすりしてるので。貧乏ゆすりするのは福を逃がしちゃうんでしょ?」

- 3334) 정치적 각성이 있겠다, 실무 능력이 있겠다, 경험이 많겠다, 사업에 대한 책임성이 높겠다 그러니 무슨 못해낸 일이 있겠소? <최윤갑·

리세통·편저／조선이 학사전>

政治的な意識はあるし, 実務能力はあるし, 経験も多いし, 仕事に対する責任感は強いし, だから何だってできないことはないじゃないか。

3335) 허당한 학생 아니더라도 제 집도 아니고 하숙집이겠다 나가서 친구집 같은 대서 며칠 자고 들어올 수도 있는 일 아니겠어요? <朴婉緒／겨울나들이>

放蕩学生じゃないとしても自分の家じゃなくて下宿なんだし, 出かけて友達の家なんかで何日か泊まって帰ってくることもありえるんじゃないでしょうか?

3336) “헤헤, 사모님 대상두 지냈구, 아직 한창이신데 소생두 없이 독수공방 하구 사시자니……돈이 남만큼 없는 것도 아니겠다……” (말을 가로막으며) “그만둬요.” <李容燦／帽子>

「へへへ, 奥様, 三回忌も終わったしまだまだこれからなのに子供もなしに寂しく一人寝でお暮らしとは……金が人様ほどないってわけでもないだろうに……」 (ことばをさえぎって) 「やめて。」

3333)～3336)のタイプの하겠다は한다や할것이다で言い替えることはできない。

主観的な評価とは, 一方ではまた, 主観のうちの論理的な帰結でもあるので, 多かれ少なかれ, ことの帰結を断することもある。そこで今度は帰結を述べる文における하겠다へと観察の対象を移さねばならない。

3—4. 帰結を述べる文における하겠다

「このままで行くと当然そうなってしまう」, 「まさにそうなりそうだ」という, 話し手の主観的な判断による, ことの帰結を述べる用法がこれである。何かしらの臨界点にことが達して,まさに起らんとするようすや, 今・ここでの自己の体験を根拠にして, このままでは早晚そうなると話し手がみなしたことがら, 与えられた条件からは当然そうであると考えられることについて述べられる。従って, 多かれ少なかれ, 判断や認定の正当性・妥当性を話し手自身が暗示していることが多い。対聞き手モダリティ

の点では、単に聞き手に帰結を伝えるだけのことであれば、聞き手に対する忠告や警告を行なうこともしばしばある。

3—2の境遇を述べる文における하겠다のところで触れた「가슴 속이 아파 죽겠소」など話し手に関する特別な事態、とりわけ不利益用言に用いられた하겠だの一群からこの用法の一群へはなだらかに連なっている。次の例で確認してみたい：

3401) “난 몸이 너무 약해서 견디기가 힘들어 언니야, 나 쓰러지겠다.
도저히 견딜 수 없단 말이야.” <송효순／서울로 가는 길>

「私は体が弱すぎて我慢できないわ、姉さん。私、倒れそう。とても我慢できないってば。」

3402) “잘못하다가 흥씨를 놓치겠는데요.” <金聖鍾／悲恋의 火印>
「まかり間違うと洪氏を逃しかねないですね。」

話し手の境遇を訴えるものでありながらも、話し手に関するこの帰結を述べてもいることがわかる。ある限界点があって、それを越すと「倒れて」しまったり「逃して」しまうということだからである。上の例は主体が話し手を含んでいるので境遇を訴えるものとなっているが、主体が話し手でなくなってくると帰結を述べる色彩が濃くなってくる：

3403) “이리다간 정말 미궁에 빠지겠어.” <金聖鍾／悲恋의 火印>
「このままではほんとに（事件は）迷宮入りになるぞ。」

3404) “아이, 이러지 마세요, 큰일 나겠소이다.” <박승희／이 매감
망할 매감>

「あれ、そのようなこと、なさってはなりませぬ。大変なことになります
る。」

主体が聞き手の例も見てみよう：

3405) (リングの外に転落した崔倍達、懸命の力をふりしぼって미자と영

하나에 나 혼자 힘으로 올라간다! 저리 비켜라! (영하は倍達を止めようとする) 형! 정말……기권을 해요! (そして마자마자) 그러다 죽겠어요! 네? <고우영／대야망 2>

「私一人の力で登るんだ！あっちへどいてろ！」「兄貴、ほんとに……棄権してよ！」「こんなことしてたら死んじゃいます！ね？」

3406) “너 이러다 병나겠다” <鄭然喜／蘭芝島>

「お前このままじゃ病気になるよ。」

このように主体が聞き手の時は忠告や警告として述べられることが多い。話し手が、あることを目撃して、そのことの帰結を述べるのがこの用法の最も典型的な例である：

3407) (リング上で高橋に投げられた崔倍達を見て観客が)“저것 봐라！”
“아앗！” “스포트라이트에 부딪치겠다！” <고우영／대야망 2>

「あれ見ろ！」 「ああっ！」 「スポットライトにぶつかるぞ！」

3408) 어라, 저 작은 사람이 당하겠네. <방학기／김경시대 6>
あ、あの小さいほうの人がやられそうだな。

こうした例からもわかるように、これからそうなるという、ことの帰結であるから、一旦その動作に入ってしまったことには하겠다は使えない。限界点を越えたことを述べるには겠다が用いられる。また、3404)など、まれに 한다でも言い替えられるものもあるけれども、事態に対する話し手の態度は하겠다とは大なり小なり異なっている。このことについては後に再度触れることにする。

さらに重要なことは、以上のような例は、ことの帰結一般を述べるのではなく、相当におしせまつた状況、非常に切迫した状況について述べているということである。話し手にとって、今・ここからの心理的な距離感が遠いと感じられる悠長なことには하겠다は用いにくいのである。このことは하겠다一般についても広く言えることであって、後に述べるように、할 것이다との違いを解明する決定的な鍵となる。心理的にすぐ後のことで

あると話し手が感じることについて~~하겠어~~を使うということは、次のような例からもよく見てとれる：

3409) “생각 좀 해 보렴. 어물어물하는 동안에 네 모례면 나이 사십이 되겠어.” <李容燦／帽子>

「ちょっと考えてみてもみでよ。ぐずぐずしてるうちに、あすのあさってには年が四十になるわ。」

これに反して発話の直後のことではなくて、たとえば千年先のこと~~하겠어~~で述べるには、時間的な距離感を解消させるほどの、強い論理的・心理的な理由付けが必要になる：

3410) 지구가 태양의 주위를 도는 것이 우주의 진리라면 지구가 없어지지 않는 한 천년 후에도 만년 후에도 지구는 태양의 주위를 돌겠구나. 地球が太陽の周りを回るのが宇宙の真理だったら、地球がなくならない限り、千年のちにも万年のちにも地球は太陽の周りを回るんだな。

「宇宙の真理だったら」と強い理由を提示しておいて、「それなら当然のことこうなのだ」と述べるのである。いわば心理的に将然性を作つて~~하겠어~~を使える環境を整えるわけである。

ところでこの用法には主体が話し手と聞き手の両方を含む場合がある：

3411) “여러분! (中略) 그럼, 이들의 삶이 어떠한가 우리 민족의 성국장을 통하여 극히 일부분만이라도 외롭고 억울하게 살고 있는 동족의 모습을 같이 보겠습니다.” <朴景昌／비립받은 同族>

「皆さん！それでは彼らの生がいかなるものか、我が民団側の成局長を通してごく一部分だけでも、孤独でやるかたなく暮らしている同族の姿を共に見ましょう。」

放送や天気予報、公的な場での司会などに多用される用法である。式の

次第などが予め話し手にわかっていないなければならないという点で、推測や推量などとは全く異なる。話し手が思うところを一方的に告知するのであるから、むしろ意志の表明ともとれるところがあって、境界的な例だと言い得る。「まさに今見ることになるのだ」という、聞き手にやや強制するような述べ方である。これも心理的には切迫した、今・ここに関連する直後の次第を述べるもので、あまり先のことには用いない。今・ここで何らかの心づもりをしろという発話なのである。テレビでしばしば耳にする「함께 보시겠습니다」も「共にご覧になります」、即ち、「ご一緒にご覧下さい」ということで、この例である。次の例も主体は異なるがやはり司会者の発話である：

3412) (リング上の司会者が観客に向かってマイクで説明する) 예……여러분! 오래 기다리셨습니다. 이 경기는 태권도와 레스링의 혼합시합이므로 레프리는 없습니다. 그리고 테드 매치가 되겠습니다. <고우영/대야망 2>

えー皆さん！長らくお待たせ致しました。この競技はテックオンドとレスリングの混合試合ですのでレフリーはおりません。そしてデスマッチとなります。

上のような司会のくだりは한것이다では言い替え難い。할것이다にすると推量的な発話になってしまふからである。この点でも両者の差は歴然としている。

下のくだりが話し手の一方的な判断であることは次の例にも現われている：

3413) (医者が) 아! 아! 이렇게 하시오. 병원은 많으니까 우선 응급 치료비부터 준비해요. (患者の友人) 무어요? (医者、背を向けて) 그담에 또 얘기합시다. (あきらめて友人はつぶやく) 히포크라테스가 울겠다 울겠어! <이근철/불개미 2>

「あ、あ、こうしましょう。病院は多いんだからまず応急治療費から用意してよ。」「何ですって。」「そのあとでまた話しましょ。」「ヒポクラテスが

泣くな、泣くよ。」

さて、こうして見てくると去就を述べる場合・境遇を述べる場合・評価を述べる場合のいずれも、多かれ少なかれ広い意味での、ことの帰結を述べているものもあることがわかるであろう。主体の違いや用言の種類などによって少しづつ実現する意味は異なるものの、結局하겠다は一つのものなのではないかという結論へと近づくのである。

3—5. 過ぎ去ったことを思いやって述べる文における했겠다

この用法は特に、III-�-という形態論上の指標が見いだされるもの、即ち했겠다形である。

この用法は、3—3で見た評価を述べる用法を過去のことへと押し戻したものだといってよい。過去のことを「まさにそうであったろう」と、話し手が思いやって(対事態モダリティ)、発話時における話し手の驚きを表したり、発話時における聞き手への同情や共感、感謝の念など、何らかの感情を表す(対聞き手モダリティ)用法である。

主体は何でもかまわない。ただし、話し手自身のことについては、話し手自身を客体化・対象化して述べることになる。また用言の種類は問わない。

注意すべきは、形態論的にはいわゆる過去接尾辞を含んでいても、ふつう、今・ここにおける関心のなかで用いられることである：

3501) “나려오시기 떠 고생스러웠겠으.” <金松／雛鶴>

「お出でになるのにずいぶんとご苦労なさったでしょう。」

3502) 살아 있을 거라고 믿었어. 고생이 많았겠구나. <임철우／同行>
生きてるだろうと信じてたよ。苦労が多かっただろうなあ。

単に「苦労が多かった」と過去のことを客観的・傍観的に述べるのではなく、「苦労が多かったろう」と、つまり、「わたしはあなたのことを今・ここで慮っているのだよ」と、話し手が聞き手に同情や共感、あるいは

は感謝の念などを表す述べ方なのである。

上の二つの例は用言が形容詞であった。今度は動詞の例を見る：

3503) 주막에 나가 술 퍼마시는 건 고사하더라도 음에 나가 맨날 쌈박
질만 해대니, 게다가 이 애미를 개패듯 끼니 젊은 마음에 오죽 기가 막
혔겠어요. <柳在順／별거벗는女子들>

(父親が) 酒場に出かけて酒をがぶ飲みするのはともかくとしても、町に
行って毎日喧嘩ばかりするし、そのうえこの母親(である私)を犬でもぶ
つようぶつもんですから、(子の)若い心ではどんなにかあきれ果てた
ことでしょう。

3504) “용 (容) 이나 정 (定) 이가 다 어른이 되었겠다. 정이가 집의
덕무와 동갑인가 한 살 더 먹었다. 그러니까 지금은 이십이 넘었겠다. “
<洪碧初／林巨正2>

「容や定がすっかり大人になったろうな。定がうちのトシムと同い年か一
つ上だ。だから今は二十歳を過ぎただろうな。」

3505) 덕분에 방구석에서 책만 봤겠구나. 짜식. <임철우／同行>
おかげで部屋の隅で本ばかり見たんだろうな、こいつめ。

用言が指定詞の場合である：

3506) 그렇지 꼭 저막 메였겠구나! <朴婉緒／겨울 나들이>
そうだ、ちょうどあのぐらいの頃だったろうな。

現実には起こらなかったことを仮想する、いわゆる反実仮想の例もある：

3507) 그때 강남에 땅이라도 사 놓았더라면 지금쯤은 큰 부자가 됐겠
구나.

あの時江南に土地でも買っておいたら、今ごろは大金持ちになってるだろ
うな。

3—3で触れた～하겠다, ~하겠어, ……という形式の過去形版もある：

3508) “여보, 이제는 나도 돈 좀 써 보고 살 테야. 내 집도 하나 장만
했겠다, 돈은 더 모아서 뭘 하겠어요.” <趙善作／高壓線>

「あなた、もう私もお金をもう少し使って暮らすわ。自分の家も一軒手に
入れたし、お金をもっと貯めたって何になるの。」

これまでの諸研究では하겠다も했겠다も同じ平面で一緒にたにして扱う
ことが多く、いたずらな混乱を招くこともしばしばであった。しかし했겠다
を他の하겠다から取り出してこのように検討してゆくと、했겠다につい
ては以上のように比較的簡単にまとめることができる。

なお、この했겠다を하겠다の「過去形」だと考えるのは当たらない。하
겠다は既に見てきたように、発話の現場における話し手の判断を述べるもの
であるから、하겠다の過去形を想定するなら、話し手の位置する現場自
体が過去のことにならなければならない。「しそうだ」が「しそうだった」
となるように、言ってみれば「하겠었다」というような形式になるはずの
ものが하겠다の過去形なのである。けれども、こういう承接は許されない
ので하겠다に過去形はないことになる。하겠다を過去のものにしたければ
過去形とは呼べないが하겠더라のようにするしかないのである。

3—6. 判断を尋ねる文や反語における하겠다

疑問形に刃が用いられた場合には、基本的に聞き手の主観的な考えを尋
ねたり糾したりする用法となる。「一般的に、あるいは事実としてそうな
のかどうか」を尋ねるのではなく、どこまでも「おまえの考えとしてはど
うなのだ」「これこれでありそうか」と、聞き手自身の判断を求めるので
ある。

同じ겠という形態素があっても平叙文と疑問文とではモダリティの面で
決定的に異なるので、アブリオリに同列に扱うのは危険である。했겠다形
と同様、疑問形についても本稿ではとりたてて別に扱う。

まず例を見よう：

3601) “이 아이를 정말 모르시겠습니까?” “네, 모르는 아이예요.”

<金聖鍾／悲恋의 火印>

「この子を本当に御存知ありませんか。」「はい。知らない子です。」

この 모르시겠습니까は 모르실 겁니까, つまり 할 것이다では言い替えられない。しかし 모르십니까, つまり 한다では言い替えることができる。 모르시겠습니까の方は、「あれこれ考えてもわかりそうにないか」とか、「知つていそうなものだがどうなのだ」という含みがあって、 모르십니까とは、やはり違う。この 하겠다も平叙形と同様、「丁寧」とか「婉曲」と呼ばれることがあるが、 そうした丁寧さや婉曲性はむしろ結果として二次的に感じられるものであって、 하겠다の本質的な働きとは言えそうにない。

3602) “엄마, 나, 그 술집 그만두고 우리 살 수가 없겠소?” <朴景昌／벼림받은 同族>

「母さん、私、あの飲み屋をやめて私たち暮らしていけないかな。」

3603) “선생님, 무엇 제가 도와드릴 일이 없겠습니까?” “시간이 있으시겠어요?” <鄭然喜／蘭芝島>

「先生、何か私がお手伝いすることありませんか。」「時間はおありますか。」

3604) “내기하는 게 어떻겠습니까?” 젊은이의 제의였다. <金聖鍾／悲恋의 火印>

「賭けてみるのはいかがでしょうか。」若者の提案であった。

上の三つは聞き手の評価・判断を尋ねている。無論、最後の例などはこの帰結を尋ねるものもある。もっとも、用言はやはり次の例のように動詞の方がより帰結的である：

3605) 후회 안하겠오? <金淑賢／먼 빛, 그 소리>

後悔しないか?

ここまで来ればもう聞き手の意志を尋ねるものと明確に区別し難いこと

がわかるだろう。次のような例に連なってゆく：

3606) “어떡하겠어? 어떡할 작정이지?” <李容燦／帽子>

「どうするの? どうするつもり?」

3607) “……날 보시겠소?” <李容燦／帽子>

「私にお会いになりますか。」

3608) “글로브를 끼고 경기를 계속하겠소? 아니면……” “아니면?”

“기권을 하겠소?” “글로브를 주시오.” <고우영／대야당 2>

「グローブをはめて競技を続けるかね? でなければ……」「でなければ?」

「棄権をするかね?」「グローブをくれ。」

なお、聞き手の意志を尋ねるのは特に主体が聞き手の場合に限られる。

こうした、意志を尋ねることは、聞き手の去就を尋ねるということであって、別の見方をすれば、ことの帰結を尋ねることに他ならない。尋ねられことがらが聞き手の随意になることであるときに、「意志」の名で呼ばれてきたのである。即ち、聞き手に去就を尋ねることは、ことの帰結を尋ねることの特殊な場合にすぎないのである。ここでもまた、「意志の하겠다」をそれ以外の하겠 다から切り離してはいけないことがわかる。

3609) (胸倉をつかみ手刀でおどしながら) 죽겠어? 살겠어? <방학기
/감격사례 1>

死にてえか? 生きてえか?

この例でもわかるように、「生きる」か「死ぬ」か、それが聞き手の随意になることであれば「意志」と呼ばれるのである。

この用法では、聞き手の判断を尋ねるということを利用して、反語表現として用いられることも非常に多い。反語としてのこの用法は結局、聞き手の考えをただし聞き手に何らかの判断を迫るものであると言える。この反語表現にあっては、特に疑問詞を伴った「疑問詞……겠 + 疑問形」という構組みが多用されることに注目したい。疑問詞としては 무엇・왜・어떻

개 · 무슨 · 어디等がある。また - し 들などもしばしば共起する。主体が話
し手のものから見る :

3610) “나는요, 너는 내려갈 테가 없는 밀바닥으로 단숨에 내려간 거
예요. 그런데 뭐가 무섭겠어요?” <鄭然喜／蘭芝島>

「私はね、もうこれ以上落ちるところがないどん底まで一息に落ちていっ
たんですよ。なのに何が怖いっていうんですか。」

3611) (혀털하게) “이제 제가 무엇을 숨기겠습니까? <이명분／창밖
의 사람들>

「今更私が何を隠したて致しましょう。」

3612) “저는 청미양을 유괴하지 않았습니다. 왜 제가 그런 어리석은
짓을 하겠습니까?” <金聖鍾／悲恋의 火印>

「私はチョンミちゃんを誘拐なんかしてません。何で私がそんな愚かなこ
とをするんですか。」

3613) “낸들 그걸 모르겠나?” <洪碧初／林巨正 2>

「私とてそれを知らぬはずがあろうか。」

3614) “네……아무리 기를 쓰구 둘아다녀도 범행이 눈에 피지 않는 절
전들 어떡허겠습니까?” <河有祥／生活記>

「はい、いくら気張って歩き回っても犯行が目につかないのを私とてどう
いたしましょう。」

今度は主体が話し手以外の場合である :

3615) 먹어서 약 안되는 게 어디 있겠수. <柳在順／별거벗는 女子들>
食って薬にならないものがどこにあるの。

3616) “이런 일을 어떻게 여자가 하겠어요. <송효순／서울로 가는
길>

「こんな仕事がどうして女にできるんですか。」

3617) “금발이 어떻게 검정색으로 변하겠어?” <金聖鍾／悲恋의 火
印>

「金髪がどうして黒に変わったんだ？」

- 3618) 사실 쓰레기에서 돈이 흘러나오지 않는다면 누가 여길 따라다니겠어요. <鄭然喜／蘭芝島>

実のところ、ごみからお金が出てこないんだったら、誰がこんなところにくっついて回るもんですか。

こうして見えてくると「疑問詞……+ + 疑問形」という枠組みは、反語表現の一つの典型として定式化してもよさそうである。

ところで「-지 않 + + 疑問形」の形で、話し手が体験した過去のことを見を驚きを表しつつ語ったり強調して語るのに用いられるものがある：

- 3619) 음……내 끝목걸을 가려니까 수상한 발소리가 들려오잖겠나. 그래 숨었다가 느닷없이 뛰어나와 불심 검문을 하려니까, 도망치기에 죄아가 잡았지 뭐야. <河有祥／生活記>

うん……俺が路地を歩いてると怪しい足音が聞こえてくるじゃないか。で、隠れてていきなり飛び出して不審訊問をしようとしたら逃げるもんだから、追いかけて捕まえたんだよな。

- 3620) 일 끝나고 부두에서 돌아오다 보니까 어제까지만 해도 없던 신기로 장수 한놈이 저 가게 앞에 앉아 있지 않겠어. <방학기／감격시대 5>

仕事が終わって埠頭からの帰りに見ると、昨日までいなかった靴屋が一人あの店の前に座ってるじゃないか。

- 3621) 며칠 전 새로 들어온 아편 열봉을 그 사무실 금고 속에 넣어두었는데 그게 감쪽같이 사라져 버렸단 말이야. 밖에 나갔다 들어와보니 금고 문이 열려 있지 않겠나. <방학기／감격시대 5>

何日か前、新しく入ってきた阿片を十袋その事務室の金庫の中に入れといたんだが、それがすっかり消えちまってるんだよ。外に出かけて戻ったら金庫の扉が開いてるじゃないか。

했겠대形の例もある：

3622) 졸업 후 사실은 한국으로 돌아가려고 했는데 우연히 몇 군데 음악제에 작품을 보냈더니 그게 입선이 되지 않았겠어요? <尹伊桑+장행훈/나의 음악 나의 조국>

卒業後、実は韓国に帰ろうとしたのですが、偶然いくつかの音楽祭に作品を送ったらそれが入選になったじゃないですか。

朝鮮語では日本語に比べて反語表現がはるかに多用されるので、反語の例は 하겠다の用例の中でも量的にかなりの比重を占める。反語について述べるのが本稿の課題ではないから、この3—6では反語と겠との親和力を指摘するにとどめ、겠の実現のしかたの記述を終えることにしよう。

4. 하겠다をいかに位置づけるか

4—1. 하겠다とはどういうものか

以上見てきたことを踏まえて 하겠다の実現のしかたについて総括する：

- (1) 하겠다は話し手を頭在化させ、事態を話し手の主観的な思いとして述べる

疑問形を除く、これまで見てきたすべての 하겠다に共通するのは、하겠다は事態を話し手の主観的な思いとして述べるということである。客観主義的に事態を叙述するという態度ではなく、話し手を頭在化させ、どこまでも話し手自身の判断として述べるのである。⁽³⁷⁾ 意志を表明するものであれ何であれ、この点でまず、すべての 하겠다は共通している。疑問形では聞き手の主観的な判断を尋ねることになる。

- (2) 하겠다は事態を切迫した、将然的なものとして述べる

さらに 하겠다は、事態を、一般的にそうであるもの、習慣としてそうであるもの、既にそうなっているもの、遠い将来におそらくそうなるであろうもの、等々として述べるものではない。そうではなくて、事態を、もつと切迫した、まさにそうなろうとしているもの、このままでは当然そうなるもの、今まさにそうなる態勢にあるもの、として述べるものである。一言で言うなら、하겠다は事態を将然的であると見ているのである。この将然性は用言が形容詞的になると、まさにこれこれでありそうだ、きっとそ

うなのだ、という述べかたになる。疑問形では聞き手が事態を将然的であると見るかどうかという聞き手の判断を尋ねるものとなる。

(3) 하겠다は<将然判断>として一元的に把握できる

以上を要約すると、하겠다는、事態を将然的なものであると話し手が主観的に判断することを示す形式である、と言える。하겠다는こうして一元的・統一的に把握できるのである。

さらに言えば：

(4) 하겠다の将然性は-게 있다に由来するのではないか

上のような하겠다의将然性は、おそらく朝鲜の語源と思われる「-게 있다-」からもたらされたものであろう。逐語的に訳せば、「何々（する）ようにある」とでも言えよう。言わば「何々すべくある」「何々すべくいる」ということなのである。これまでの検討は、この着想を積極的に支持してくれていると思われる。⁽³⁸⁾

(5) 하겠다는今・ここでの発話の現場の関心のなかにある

하겠다で述べられることがらは、基本的には話し手の、今・ここでの、発話の現場の関心のなかにある。これもまた하겠다의将然的な性格がもたらすものと言える。

(6) 하겠다の発話には何らかの根拠が必要なことが多い

引用した用例には一々その文脈を示しておいた。하겠다での発話には多くの前提・根拠が必要なことがわかるからである。基本的には話し手の今・ここでの体験・情報がその役割を果たしている。

(7) 하겠다の実現のしかたを区別だてる条件がある

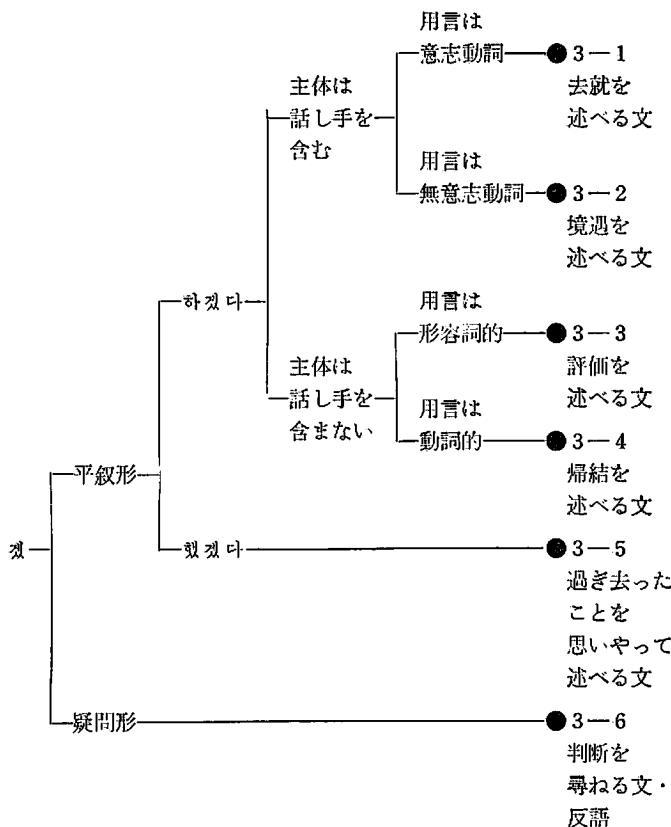
このように一つのものである하겠다가、一体どのような条件によってかくも多様な意味を実現するのかは既に明らかになった。基本的に、①事態の主体は話し手か、②事態の用言は動詞か形容詞か、とりわけ意志動詞かどうか、という二つの条件に大きく規定される。つまりとりわけ、事態は話し手に関することなのか、話し手の意志で左右できることなのかどうかということによって하겠다의実現のしかたが大きく規定されるのである。

図2に示す。

各々の用法は、機械的に切り離されて存在しているものではなく、互い

図2 次の実現のしかたの条件

* 本稿の記述の場合分けのおよその条件を示す



に条件を変えつつも大きく一つに連なっていて、一元的な統一性を示しているわけである。図3参照。

4-2. 하겠다と意志をめぐって

ここで意志=推量論争の一方の軸である、意志ということについて整理しておこう。上で述べたように、하겠다는事態を将然的なものであると話し手が主観的に判断することを示す形式であった。つまり事態を、まさにそうなろうとしているもの、このままでは当然そうなるもの、として述べるものであった。主体が話し手を含み、かつ用言が意志動詞であるとき、

図3 もの実現のしかたの分布

*番号は本文の用例の番号を示す。文は短くしてある。

3109) 잡싸 보겠어요

3104) 선생님한테 말기겠어요

3101) 내가 편지를 쓰겠어요

3105) 잠깐 다녀오겠어요

3111) 증거를 끄 주겠소

3117) 명심 하겠읍니다

3103) 용건만 만하겠나

3118) 주의 하겠읍니다

3201) 잘 부탁하겠읍니다

3207) 못 봐 주겠군

● 3—2

境遇を

述べる

文で

● 3—1

去就を

述べる

文で

3213) 안겠읍니다

3209) 아직도 모르겠어

3120) 잘 먹겠다

3114) 이기겠소

3116) 죽어도 못 나가겠어요

3218) 죽여 주지

않으면 내가 죽겠다

3206) 못 먹겠어요

3115) 용서 못하겠어요

3201) 처용 뵙겠습니다

3204) 못 참겠어요

3332) 당신 같은

3205) 못 견디겠어요

3215) 오줌 마리워 죽겠구나

3217) 나 죽겠나 기계야

3401) 나 쓰러지겠다

3219) 우리가 제일 불리하겠는데요

3411) 갈이

보겠읍니다

3405) 그러다 죽겠어요

3402) 놓쳐 졌는데요

3403) 미궁에 빠져겠어

3404) 큰일 나겠소이다

3409) 나이 사십이 되겠어

3408) 저 작은 사람이

3407) 뿐 뒷치겠다

3413) 히포크라테스가 울겠다

3412) 베드 배치가

3410) 지구는

3414) 위험하겠다

3314) 위험하겠다

3315) 더 어렵겠네요

3319) 살아남을 수 있겠읍니다

3309) 행복하겠군요

3310) 민 출겠다

3311) 적정되시겠읍니다

3312) 적적하시겠읍니다

● 3—2

境遇を

述べる

文で

3330) 땐 소릴 다 들겠구나

3326) 능력이라고 하겠읍니다

3318) 할 수 있겠군요

3317) 안되겠구나

3321) 뜻아가야겠다

3307) 한 번이라도 좋겠다

3305) 가 있는게 낫겠오

3314) 가능성이 좋겠다

3306) 가능성이 좋겠다

3308) 더 어렵겠네요

● 3—3

評価を

述べる

文で

事態は普通、話し手の意志で左右できることがらを表すことになる。そのように、事態が話し手の随意になるものであれば 하겠다を用いたその発話は意志を表明することになるのである。随意になる事態でなければ「まさにそうなるうとしている」となり、随意になる事態であれば「まさにそうしようと思っている」という意味となる。みずからの去就を将然的なものとして述べること、これが하겠다の意志なのである。

ここで次の例を見てみたい：

4201) 이번엔 끓은 전갈 따위와는 다르다는 것을 알고 있다. 그러나……나는 정정당당히 싸울 것이다. <고우영／태야망 2>

今度は「赤いさそり」なんかと違うことはわかっている。しかし……私は正正堂堂と闘うぞ。

4202) “그런 것은 청미 아빠한테 가서 물어 보세요.” “물론 물어볼 겁니다. 두 분의 말씀이 일치하는지……” <金聖鍾／悲恋의 火印>

「そんなことはチョンミの父さん(即ち自分の夫)に聞いてみてください。」「もちろん聞いてみます。お二人のお話が一致するか……」

4203) “이전로 노자 해가지고 서울 갈 겁니다. 오늘요.” “서울을요? 채요? 하필이면 이 추운 날” <朴婉緒／겨울 나들이>

「これを汽車賃にしてソウルへ行きます。今日。」「ソウルへ?なぜですか? よりによってこんな寒い日に。」

上のように、하겠다のみならず할것이다でもいわゆる意志の表明は可能である。また、하겠다を 할것이다で言い替え得る用例があることも既に述べた。上の三つの例も하겠다で言い替え得る。しかし 할것이다の意志は、将然的に述べられる意志ではない。今・ここで証明できぬ話し手自身の姿を、想像の上で展開し、対象化して述べることで意志表明の役割が果たされる、それが 할것이다の意志である。どこまでも今・ここにいない自分の姿を推し量って述べるのである。それは想像された、結果像としての意志だと言ってよい。自らが行為しているという事態を、推量されたものとして聞き手に伝えることによって、それが意志の表明として機能するのであ

る。

このように、対聞き手モダリティの点では、同じように意志の表明をするものであっても、対事態モダリティにおいては、하겠다と할것이다は決定的に異なるのである。

では、한다ではどうか：

4204) 자——입체정이의 이야기를 끝으로 쓰기 시작하겠습니다. 쓴다 쓴다 하고 절감스럽게 쓰지 않고 끌어오면 이야기를 지금부터야 쓰기 시작합니다. <洪碧初／林巨正1>

さあさ、林巨正の話を筆にて書き始めます。書く書くとするする書きもせず引きのばしていた話を今こそ書き始めます。

4205) (傘を売り歩く主人公) 우산! 우산! (どこからか声) 우산. (主人公) 예! 갑니다! <이근철／불개미1>

「傘！傘！」 「傘！」 「はいっ！行きます！」

以上の例で한다でもまた対聞き手モダリティにおいて意志の表明ができることがわかる。対事態モダリティにおいては、自分の去就に関する事態を、確かなものとして、既にそういう行為に入ったものと、あるいは入ったも同然であると、確言していると言ってよい。そうすることが、すなわち意志の表明として機能するのである。한다の意志は、去就を既然のものと確言するものだと言えるであろう。

こうして見てくると明らかかなように、話し手を主体にし意志動詞を用言に用いて未発の事態を肯定的に述べれば、特に하겠어を用いなくとも多かれ少なかれ意志を表明することになってしまう。意志表明の働きをする場合は、①主体は話し手自身を含む、②意志動詞を用言とする、③過去形を取らない、という点では、하겠어であろうと할것이다であろうと、한다であろうと、その他の形式であろうと同様なのである。そもそも自らの去就について肯定的に述べればどのような形式でも大なり小なり意志の表明として機能する。だとすれば하겠어が「意志」たりうる条件として過去の諸研究でからうじて触れられてきた上の三つの条件は、よりもなおさず、하

次に限らず意志表明が可能なあらゆる形式が実際に意志表明をするための最低限の必要条件に過ぎなかつたのだ、ということになる。本来なら、 하겠다のみならず할것이다や한다でも意志を表し得るのだという最も根源的な言語事実を確認し、それらの意志の表しかたの違いをこそ明らかにしなければならなかつたのである。

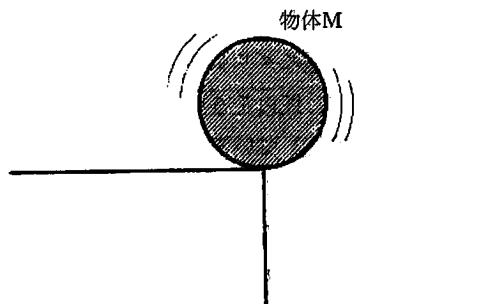
既に述べたように、意志の表明とは、対聞き手モダリティの次元に位置づけるべきことからである。そして残された対事態モダリティの次元にこそ、これら諸形式間の決定的な違いが存するのである。

4—3. 하겠다の非推量性と할것이다の推量性

意志=推量論争の中で、まずほとんどの研究者が疑わなかつたことが一つある。それは次が推量（もしくは推定・推測、つまり推し量り）の意味を持つ、ということである。推し量り——果してそうか？

図を見てみよう。崖である。物体Mはいまにも落ちようとしている。これを見てこういう発話が可能である：

図4 ●



4301)

아, 떨어지겠다!!

아, 落ちそうだ!

これは推し量りではない。これは、今よりのちに、物体Mが「落ちる」ことを推量したり予想するための発話ではない。どこまでも、物体Mが「落ちる」という臨界点に直面しているという状況、そういう状況を現在が呈している、という発話なのである。そういう今・この状況についての判断に主眼があるのである。この点だけから言えば、日本語の「何々しそうだ」に非常に良く似ている。⁽⁴⁰⁾任洪彬(80)が「現在状況との関連性」を強調したのはまさに하겠다が、現在呈している状況について述べるからな

のである。

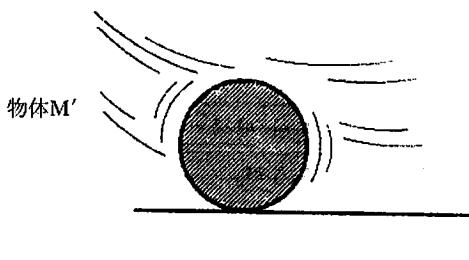
もう一度図に帰ろう。また次のような発話も可能であることに注目したい：

4302) 아, 떨어진다!

あ, 落ちる!

ここでは話し手は自信を持ってはっきり言い切っている。つまり事態を確言していることがよくわかる。動作の局面から言えば、言わば物体Mは既に「떨어진다(落ちる)」という動作に入っているのだという見かたである。한다と 하겠다、これら二つの例においては話し手は何らの推し量りもしていない。いやむしろ決めつけ・決め込み・思い込み・断定をしていふと言つてよい。한다のみならず、このような하겠다を推量と名づけるのは果たしてどうだろうか。推し量るというのは、むしろ次ののような例に言うべきであろう：

図5●



4303)

아마 떨어질 것이다.

たぶん落ちるだろう。

このような例こそ推量の名にふさわしい。話し手は事態を想像の上で展開するという態度で発話をおこなっているのである。ここには하겠다のような必然性・切迫感はない。現在呈している状況に关心があるのでない。あくまでも結果としての「떨어진다(落ちる)」という状況のほうに話し手の关心は向いている。

朝鮮語の典型的な推量の文は、まさに 4303) のような「아마……할것이다」という形式で代表することができると言ってよい。そして「たぶん……だろう」と推し量るのに用いられているこの副詞아마と、⁽⁴¹⁾ 하겠다とが共起しにくいことに注目したい。어쩌면なども共起しにくい傾向がある。こうした副詞と하겠다との非共起性もまた하겠다の非推量性を裏づけてくれるものである。

共起性の点から言えば、用言語尾-네요も示唆してくれるところがある。
-네요は、話し手が何か新しいことを発見したり新たな体験や情報を得た際にやや歎嘆的述べる語尾である。既に多くの例をあげたように、하겠다と-네요は하겠네요という形で承接が可能である。一方、할것이다と-네요は할것이네요などという形で用いられない。現場における新しい発見や体験ということと하겠다の現場への関心は矛盾しないが、할것이다の推量性、非現場性は矛盾するからであろう。

いま少し図5を観察してみよう。物体 M' の位置では하겠다を用いにくい。하겠다で言うためには、何かしらある程度強い論理的な、もしくは心理的な根拠を示して必然性・切迫性を与えてやるのがよい。例えば 4304) のようにである：

4304) 사람이 아주 세게 불면 떨어지겠다.

風がとても強く吹くと落ちそうだ。

ところで上の 4304) を할것이다に替えることもできる：

4305) 사람이 아주 세게 불면 떨어질 것이다.

風がとても強く吹くと落ちるだろう。

4304) と 4305) は似ているようで違う。これが多くの研究者たちを悩ませてきたのであった。本稿では既にこの二つの違いを明らかにしている。いま一度整理のために確認しておこう。

4304) と 4305) はいずれも、「風がとても強く吹くと落ちる」という事態

そのものは同じである。しかし事態に向き合う話し手の態度は異なっている。即ち、対事態モダリティにおいて異なる。하겼다を用いた4304)は現在のありかたに関心をおいたまま、事態を将然的なものと判断しているのである。一方、할것이다を用いた4305)は推量である。関心は現在にはない。むしろ落ちるという結果にある。想像の上で展開された、ことの帰結自体に関心があるのである。事態を蓋然的なものと見ているのである。結局のところ、事態をこうした将然的なものとして判断する態度と、蓋然性を持つものとして想像の上で展開・推量するという態度は、およそ決定的な差だと言つてよい。崔鉉培以来50年このかた、하겼다는推量の名で呼ばれてきたけれども、ここらでもう推量の名から解放してやるべきであろう。

なお、推量は、必ずしも確信度が弱かったり、蓋然性が低かったりするとは限らない。次の例のように 할것이다を用いて、話し手は、確信に満ちて語ることもできるしまたその逆も可能である：

4306) 그가 사람들의 기억에서 잊혀지고 이 비목마저 세월 속에 삭아져도, 이 땅에 뜨거운 해가 끄고 지는 한 그의 냉은 영원히 살아 있을 것이다. 그가 이 땅에 노래로 살다 간 사랑은 저 바다의 눈부신 물비늘로 반짝이며 먼 뚝배의 소리들로 이어지며 작은 바닷새의 꿈으로 살아갈 것이다. <李清俊／해변아리랑>

彼が人々の記憶から忘れ去られ、この墓標さえ歳月のうちに朽ち果てても、この地に熱き陽が昇りまた沈む限り、彼の魂は永えに生きるであろう。彼がこの地に歌で生きそして死んでいったその愛は、あの海のまぶしいさざ波となって輝き、遠くの帆かけ船の音へと連なって、小さな海鳥の夢として生きてゆくであろう。

4—4. 하겼다の文法範疇をめぐって

第1章で触れた하겼다をめぐる論争の三つの争点のうち、意志と推量の問題、하겼다と 할것이다の違いという二つの問題については既に本稿の解答を提出した。今一つの争点、하겼다の文法範疇は一体何かという問題に

関して最後に確認しておきたい。

하겠다に関してはテンス説から始まってムード説・アスペクト説、それらの複合説など、さまざまな説が提起されたことは既に述べた。一言で言うならばこれらどの説に転んでもおかしくないような性格を하겠다는持っている。

まずテンスに関して述べるならば、疑問形や했겠다形を除けば하겠다の用例のうち、用言が動詞である用例のかなりの部分は未来、それも切迫未来とでも言えそうな発話時の直後の未来を表している。ただしわゆる現在を表す用例もあるので未来形という規定は誤りだと考えた方がよい。時間的には現在=未来を表すとしか言えないだろう。しかし用言が形容詞的な場合、つまり3—3の評価を述べる一群になると時間の物差しでは割り切れないものが多い。また한다や했다など他の形式との対立を考えるとき、テンス的な対立として하겠다を設定するのは無理がある。テンス説はやはり採り難いのである。

次にアスペクト説である。これも魅力的な説である。特に用言が動詞の例を考えると、本稿で明らかにした「まさにしようとしている」という切迫した専然的な性格は非常にアスペクト的な性格であると言える。元来ロシア語などのアスペクトはそもそも動詞に関わる文法範疇であって、その意味では形容詞が述語のうちで大きな比重を占める朝鮮語や日本語では言わば用言の半分にしか適用しにくい文法範疇なのである。アスペクト的な性格が適用できない「アスペクトからの解放」⁽⁴²⁾などと呼ばれる例が日本語文法でしばしば論じられるが、そういう「アスペクトからの解放」を広く認めるなら、하겠다と한다はまさにアスペクト的な対立のうちにあると言える。ただし実際問題として3—3の評価を述べる文における用例のほとんどはそうした「アスペクトからの解放」の例になってしまふことになる。つまりアスペクトからはみ出してしまふ用例が多すぎるるのである。そればかりか、한다と하고있다をアスペクト的な対立で捉えるとするなら、한다・하겠だけばかりでなく하고있겠다という形式も存在する点で、二重のアスペクトを想定することになってしまう。結局、何をアスペクトとするかという問題にも規定されてしまうわけである。

最後に、話し手の主観的な思いを述べるという 하겠다に共通した性格は、ムード説を支えるに十分である。하겠다は常に話し手の態度を表すものだからである。結局のところ、テンス的・アスペクト的な性格を濃厚に持ったムード形式であるというのが、하겠다の穏当な位置づけであろう。

こうしてみると先行諸研究の文法範疇論の欠点は、하겠다の用例の一部しか見ずに하겠다の全体を規定しようとしたこと、及び、諸形式を対立の中で考えるべき範疇論が論議の中で欠落する傾向にあったことに起因すると言えよう。

4—5. 朝鮮語のムード形式としての하겠다

こうしていよいよ 0—1 で設定した最後の問題に答えておかねばならない。朝鮮語のムードの諸形式のなかで하겠다はいかなる位置を占めるのかという問い合わせについてである。하겠다と共に、本稿で主に対照して述べてきた、한다・할것이다 という形式を併せて要約しておくこととする。ムードにおいて対立する三つの形式の基本的な働きをここに示す：

하겠다 事態が必然的なものであるという話し手の主観的な判断を、
話し手を顕在化させながら述べる。関心は今・ここにある

한다 既にそうなっているという既然的なものとして事態をきっぱり言い切る、すなわち確言する

할것이다 事態をいま・ここで証明できぬ非現場的なもの・蓋然的なものとして想像の上で展開する、すなわち推量する。関心は展開され対象化された結果にある

それぞれのムード形式は次のように名づけたい：

하겠다 将然判断

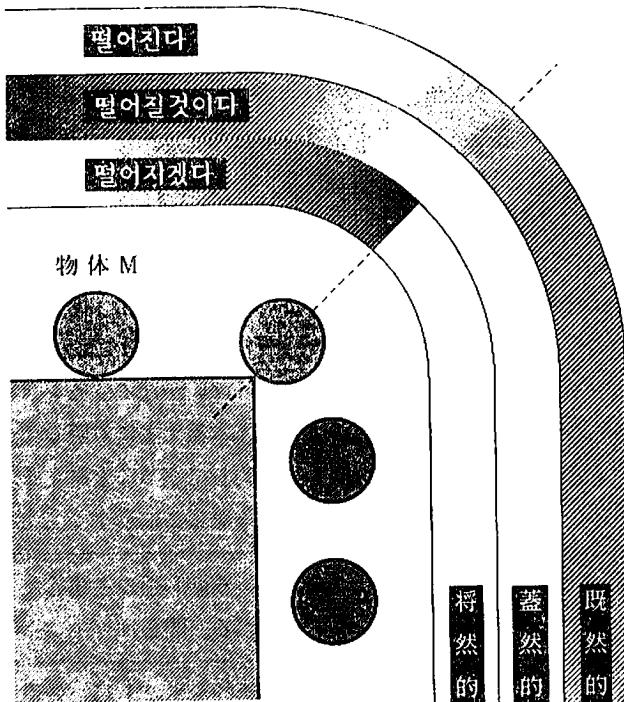
한다 既然確言

할것이다 蓋然推量

第三者が主体で用言が離れて 지다という動詞の場合を想定して、これら三

つのムード形式を図 6 に模式化しておく。

図 6 亂れじけだ・乱れ 진다・亂れ질것이다の模式図



5. おわりに

5-1. 要 約

本稿で述べたところを要約しておく。

全体は第 0 章において立てた問題に従って展開されている。

まず第 1 章において、 하겠다の研究史を概観した。60年代までは仍は未來のテンス接辞と見られていた。共和国や中国では現在もテンス説である。70年代以降の韓国での 하겠다をめぐる論争は、①まず何よりも意志=推量論争であって、②テンス説・ムード説等々の間を大きく揺れ動いており、③하겠다と할것이다との違いも問題になった。日本においては70年代末以降、反テンス説が登場している。これまでの研究のうちには、用法の

記述の非体系性、要素主義的な把握の限界、広範な言語事実の検討の不足などが見受けられ、*하겠대*の本格的な解明は、未だなされていなかったことを述べた。

これを受け第2章では、意志=推量論争の矛盾を止揚するためには、①モダリティとムードの区別が必須であること、さらに、②モダリティ論においては、対事態モダリティと対聞き手モダリティの二つの平面の区別が不可欠である、ということを述べた。事態(叙述の素材としてのことがら)に対する話し手の態度がすなわち対事態モダリティ(=命題を判断するモダリティ)であり、聞き手に向ける話し手の態度が対聞き手モダリティ(=聞き手に働きかけるモダリティ)である。そしてこの二つのモダリティの峻別により、「意志か推量か」という問題の立てかた自体が誤りであることを見出した。

a) *하겠대*形

	意志動詞的な用言	無意志動詞的な用言
主体は 話し手的	3-1 ● 去就を述べる文で 将然、話し手の意志であるこ との明示、まれに決意 「何々する」、「何々す るぞ」	3-2 ● 境遇を述べる文で 将然、「何々しそうだ」「何 々だ」、しばしば態度や心的な 感情の訴え、話し手の 顕在化
主体は 非話し手的	動詞的な用言	将然判断
	3-4 ● 帰結を述べる文で 将然、「何々しそうだ」「何 々となる」、しばしば警告・驚 き	3-3 ● 評価を述べる文で 将然、「何々そうだ」話し手 の主観的評価であることの明 示、まれに話し手の願望や促 しなど

b) *했겠대*形

3-5 ●過去ったことを思いやって述べる
(あるいは反実仮想を述べる)

c) 疑問形

3-6 ●事態を将然的なものと見るかどうかという
聞き手の主観的な判断を尋ねる
(反語となるもの多し)

第3章において具体的に用例を検討した。まず、分類の基準を提示し、分類における境界的な例の積極的意義を説いた。その上で 하겠다形を大きく四つに、했겠다形と疑問形を合わせて六つに分類した。しかしながら、どこまでもそれらすべての 하겠다は、境界的な用法を経帶として、一元的に大きく連なっているのだということを実例で示した。各用法のあらましは前頁の表の通りである。

第4章では、まず第3章を総括した。하겠다は、話し手を顕在化させ、事態を話し手の主観的な思いとして述べるものであり、まさにそななる態勢にあるという、切迫した、将然的なものとして事態を染め上げるものである。総じて、하겠다は、事態が将然的なのだと話し手の主観的な判断を、発話時に関心を留めつつ述べる形式なのである。次に、意志の表明は、하겠다のみならず 할것이다や 한다などの形式でも可能であることに触れ、モダリティの二つの平面の峻別を通してそれら諸形式相互の違いを明らかにした。하겠다の意志は、話し手の意志で左右できる事態を、つまりみずからの去就を、将然的なものとして述べるという点で他の諸形式の意志の表明のしかたと異なるのであった。次に、하겠다は事態について将然性を認め、非推量的に述べるものであり、これと対照的に、할것이다は事態の蓋然性を認め、推量的に述べる形式であることを論じた。아叶などの副詞との非共起性もまた하겠다の非推量性を物語るものである。そして하겠다を推量と呼ぶべきでないことを説いた。最後に、하겠다がテンスやアスペクト的な性格の濃いムード形式として한다・할것이다と対立していることを説き、それを次のように定式化した：

겠다	将然判断
한다	既然確言
할것이다	蓋然推量

5—2. 残された問題

0—1で述べたように、の正確な把握を目指して本稿ではあえて하지・하지지の形式、を持つ接続形の諸形式を排除しておいた。今後하지・하지지や接続形の研究が進むにつれ、排除しておいた諸形式の性格も

明らかになってくるであろう。また、朝鮮語のムード形式の全体像も追究されるべき大きな課題である。いずれにせよ、対象の範囲を明確に定めて、その範囲内の言語事実を可能な限り克明に調べてゆくことが何よりも必要とされるであろう。

【謝辞】本稿をまとめにあたり、菅野裕臣先生及び志部昭平先生にはひとかたならぬ御指導をいただいた。また、金周源・沈元燮・徐尚撰の諸氏、妻・権在淑を始めとする、お世話をなった多くの母語話者の皆さんにも心から感謝する。

註

- (1) “-겠-”を、以下単に“겠”と表記する。
- (2) 恙を持つ諸形式には、하겠다・하겠어・하겠네・하겠오・하겠구나・하겠어豆・하겠읍니다……等、多くの形式がある。論を進めるにあたってこうした諸形式を一々例挙するのは煩瑣であるから、하겠다という形式をもってそれら諸形式を代表させることにする。また、いわゆる過去接尾辞のついた、했겠다・했겠어……等々は했겠다で代表させる。更に、語尾-지・-지요のついた하겠지・하겠지요の形式は、하겠다というときには一応除外しておく。-지・-지요という語尾の持つ働きは非常に強く、그의働きの上に強くおおいがぶさっているかのことくである。-지・-지요の研究が未だほとんどない現在では、この形式はとりあえず特にとりたて別にしておくのが良いであろう。ただ、大局的に見れば、本稿で述べることはそっくりそのまま하겠지・하겠지요の形式にもあてはまると考えてさしつかえない。厳密を期すためにあえて除外しておくのみである。
- (3) 하겠거니와・하겠으니・하겠지만……等の、그を含むいわゆる接続形(*con-verbum*)、「一つの用言が種々なる関係を以て他の用言に接続する場合に取る形」。河野六郎(55)による。具体的には用言の終止形・連体形・体言形以外の用言の形が接続形である。菅野裕臣(81)参照)の諸形式は対象から除外する。とりあえず終止形のなかでこそ그の本来の姿を正確に把握できると考えたからである。なお、하겠다고や하겠다는のような引用の形式も対象から除外しておいた。
- (4) 便宜上、“한 것이다”的な分かち書きはしないことにする。なお、朝鮮民主主義人民共和国(以下「共和国」と略す)の表記では分かち書きされない。以下、一つの形式と認めるものは分かち書きせず、例えば할수 있다・할것 같다等のように表記する。
- (5) 以下、文献の1900年代の“19”は略す。
- (6) 例えば、그は末来時制の未来形とされ、意味は7通りあるとされるのであるが、「直接目撃した行動をそのまま描写しながら伝達する」ものや、「現在の状態を確認しながら叙述」するもの、「非断定的に余裕をおく」もの、「予期しなか

ったこと」を述べるもの、「行動の勧告」等、「未来」という概念を大きく逸脱していると思えるものがあまりに多い。また、「談話の時間よりあとのこと」の下位区分として「未来・意志・推測・可能性」があるとされるものの、それら相互の関係や分類の条件は示されていない。

(7) 例えば、『조선어학사전』では、ヌは「時称𠂊」であるとされ、「時称的意味と様態的意味を表す」とされる。その上で14の項目に分類されている。しかし「副詞ヌと共に」用いて「否定する態度を表す」という項目が立ててあることなど、首肯できぬものがあり、また、分類相互の関係には相変らず触れられていないことなど、やはり不十分さはぬぐえない。また、用例のなかには現在の韓国の母語話者から見ると不自然だとされるものがいくつかある。

(8) その後誰もこの二つのヌについては触れていなかったが、任洪彬(80)が初めて、ヌとヌとは、実は同じものなのだと述べている。用例の収集の過程でこのヌ(もしくはヌ)という形を何度も目にしたが、方言話者の発話として小説のなかに現れる。本稿も任洪彬(80)と同じ立場に立つ。ただしあくまで方言形として考えるので、本稿では扱わない。参考までにここに一例を示すことにとどめる。

「자, 오후에 낮차 오기 전에 저걸 전부 까비려야 데. 오늘도 보지란히 서둘러야 되겄다.」<이상락／난지도의 曰>

「난리 전에 일찌감치 여그릴 떠나부렸소. 그럼께 난리통에 일어난 일은 암것도 모르겠소.」영감은 잘라 말했다. <趙廷來／流刑의 當>

(9) 「이 버드나루가 살겠네.」(この柳が生き延びそうだね)が未来補助語幹とされている一方で、「한 시간에 떠리라고 달아나겠다.」(一時間に百里だって逃げそうだ)や、「네가 그 문제를 풀겠느냐.」(お前がその問題を解けそうか)が可能補助語幹とされる点など、問題が多い。この点については徐正洙(77)でも疑問が提出されている。

(10) 日本では、modality は法性・叙法性・法態、mood は法・叙法などと訳されている。本稿では誤語にこだわらず、ただモダリティ、ムードとだけ呼んでおく。

(11) Fillmore(75)は文の基底構造において命題(proposition)と法(modality)を分離した。朝鮮言語学では、梅田博之・村崎恭子(82)が proposition と modality という把握をしている。そのほか、多くの研究者たちがさまざまな規定のしかたで modality を論じている。そういった諸研究に学んだ点は多いけれども、いずれも本稿とは多かれ少なかれ異なっている。

(12) この観点に立てば、日本語文法でしばしば問題になる「陳述性」もモダリティに含まれることになる。

(13) 文のモダリティと動詞などのムードとの区別については鈴木重幸(72)参照。形態論は単語の文法的な側面を扱う。ただし、本稿では、狭い意味でのいわゆる単語のみならず、例えば할것이다のようにいくつかの形態素の連なりであっても、一つの形式として形態論でも扱う。

- (14) 鈴木重幸 (72) では、モダリティに二つの意味的なメント（要素）が含まれるとされ、「話し手の現実に対する態度」と「話し手のあい手に対する態度」に言及されている。ただしそこでいう「現実」と本稿でいう「事態」とは同じものではない。「事態」は言語によって示されるものであって決して「現実」そのものでも「現実の断片」でもないからである。非現実のこと、超現実的なこと、パラドックス、ナンセンスなこと、思い違い、できごとの否定等々をも事態として示しうるのが言語である以上、「現実」という捉え方はあたらない。このことはモダリティのみならずテンスなどを考える際にも重要である。例えばいわゆる「過去」という概念は、現実の上で過去のことかどうかよりも、話し手や聞き手が過去のことと把握しているかどうかということに関する概念なのである。また、柴田紀男 (82) は、「事態に対する話者の発言態度」と「事態に関して、話者が対者に向ける態度」および「事態を離れて、話者が対者を遇する態度」の三つを区別している。鈴木重幸 (72)・柴田紀男 (82) とも、残念ながら本稿とは異なっているとはいえ、いずれも示唆してくれるところ大である。
- (15) ただし、テンスやアスペクトは、モダリティのうちでも事態に近い、モダリティの特殊な一群であると考えてよい。テンスといい、アスペクトという、それらは結局のところ話し手によるものごとの把握のしかたであって、事態に対する話し手の態度にはかならないからである。テンス・アスペクト・ムードと並列させるのは、ここではあくまで説明のための便宜に過ぎない。
- (16) 意思=推量形という解決のしかたもこうした二者択一的な問い合わせかたそのものは認めてしまっていることになる。
- (17) 事態の主体と、文における主語という二つの概念を混同してはならない。主語という呼称は、どこまでも言語的表現をとったものについてのみ用いる。朝鮮語や日本語のような言語では主体が主語という形で明示されないことが多いのである。同様に、話し手と一人称、聞き手と二人称、第三者と三人称も区別する。任洪彬 (80) や菅野裕臣 (86) の再三の指摘にもかかわらず相変らず混同されがちである。
- (18) 以後、用言の基本的な品詞分類は菅野裕臣 (81) により、動詞・形容詞・存在詞・指定詞の4つとする。
- (19) Ⅲは用言の第Ⅲ語基を示す。河野六郎 (55)・菅野裕臣 (81) 参照。
- (20) 反語などについても言語学の主要な対象から除外すべきではないと考える。千野栄一 (80) 参照。
- (21) 以後、用例の出典は<>に入れて、著者名・作品名の順で示す。作品名の後ろの数字は巻数を示す。用例の分から書きはすべて原著のままとする。用例の日本語訳はすべて引用者の手になるものである。用例のなかに()を用いて引用者の註を付することがある。なお、用例を引用した資料は、主に韓国の、70年代以降出版されたものである。洪碧初(洪命熹)は解放前のものであるが、用例はすべて韓国の母語話者が不自然と感じないもののみ引用した。<>のないも

- のは作例を示す。4行の用例の番号は、例えば、3102)とあれば、3—1の2つの用例であることを示す。
- (22) 主体の意志によって制御することのできる動作を表す動詞を意志動詞といふ。命令形・勧誘形になりうる。これに対するものを無意志動詞といふ。鈴木重幸 (72) 参照。ただし、のちに述べるように、同じ動詞が意志動詞と無意志動詞のいずれにもなることがある。
- (23) 二つ以上の形が結合してある種の意味を持つものを分析的な形といふ。菅野裕臣(81)による。
- (24) 例えば3103)・3105)・3106)等。
- (25) 例えば3101)・3102)等。
- (26) このように、「まさに何々しようとしている」、「まさに何々となろうとしている」という、切迫したありさまであることを将然と呼んでおく。なお、本稿では後々この将然を広い意味で用いてゆく。
- (27) 遂行動詞とは発話それ自体が行為の実現となるような動詞を言う。日本語では「約束する」等の動詞。
- (28) 下称形の名称は菅野裕臣(81)による。
- (29) 主体に不利な動作・状態を示すこうした用言を不利益用言といふ。
- (30) 『조선어 문법』(60)は、「그만하면 깨닫겠습니다」の例をあげている。
- (31) 例えば、A 5 判で348頁の推理小説『悲恋의 火印』には、本稿で対象としている終止形の 하겠 다は255例現れる。そのうち、알다と모르다に用いられたものが69例、全体の27%にのぼっている。なお、それらを含めて3—2に該当する例は78例、30.6%である。また、B 6 判270頁の小説『사람의 아둔』には終止形의 하겠 다は77例、うち알다と모르다の例は8例、10.4%である。
- (32) 「既にそうである」ことを既然といふことにする。
- (33) 例えば、推理小説『悲恋의 火印』では、終止形に現れた255例의 하겠 다のすべてが会話文に用いられたものであり、純粋の地の文に使われた例は一つもない。また『사람의 아둔』でも同様で、なかば会話文と言える獨白に用いられた4例を除けば、終止形의 하겠 다77例のすべてが会話文に用いられたものであった。一般に地の文で最も多く用いられるのは叙事形であるが、これは叙事形が客観的な事実の描写に適していることを示している。なお、稀にせり形も地の文に用いられる。
- (34) 南基心(72)は歎のほか、가리라、썩으리라の句も未確認法としている。
- (35) 話し手の評価を表す形容詞を評価形容詞といふ。
- (36) 例えば『悲恋의 火印』では255例의 하겠 다のうち73例が疑問形、うち23例つまり全かげたのうち9%が反語の用例である。『사람의 아둔』では77例のうち31例が疑問形、うち14例、全終止形의 하겠 다のうち18.2%が反語の用例である。
- (37) 하겠 다のこうした性格は、書き言葉よりも話し言葉の方が하겠 다の頻度が高いということにも現れている。

- (38) 河野六郎(55)・任洪彬(80)もこの説である。ただし、文献上で次の形成過程をあとづけるのは極めて難しい。
- (39) 中昌淳(72)・徐正洙(77)・李基用(78)などで何度も形を変えて議論されてきた。
- (40) 森田良行(80)223頁参照、國廣哲彌(82)87—94頁とも比較せよ。
- (41) 李基用(77)・成耆徹(79)でもこの非共起性が指摘されている。ただし、収集した用例のなかに아마と하겠다が共起しているものが全くないわけではない。なお、하겠지・하겠지요だと共起しやすくなる。
- (42) 国立国語研究所(85)などを参照。
- (43) 終止形においては하겠다・한다・할것이다は互いに共起しない。なお、朝鮮語のムード形式はこの三つしかないわけではない。その他の諸形式についても克明な調査が必要である。

用例を引用した資料

本稿に引いた用例は次の書からとった。様々なジャンルのものから70年代以降に書かれたものを中心を選んだ。著者が나다順。(小)は小説、(戯)は戯曲、(漫)は漫画、(対)は対談、(隨)は隨筆、(学)は学習参考書、(研)は研究書、(記)は記録・手記をそれぞれ示す。하겠다の頻度が高いのは戯曲と対談であった。なお、用例を収集はしても本稿に引用していない書についてはここに一々挙げなかつた。

- 고우영(80) “내야당2” 어문학(漫)
- 고우영(80) “林巨正4” 宇石出版社(漫)
- 金聖鍾(85) “悲恋의火印” 小說文學社(小)
- 金松(37; 77) “鬱鶴” 韓國戯曲文學体系2所収 韓國演劇社(戯)
- 金淑賢(84) “민릿, 그 소리” 時代, 삶의 表象所収 教音社(戯)
- 朴景昌(84) “벼랑반은同族” 時代, 삶의 表象所収 教音社(戯)
- 박승희(68) “이래감당할래감” 新文學60年代代表作品集6 正音社(戯)
- 朴婉緒(75; 85) “겨울나들이” 해방40년의 문학2所収 民音社(小)
- 방학기(85·86) “감각시대 1·5·6” 宇石(漫)
- 송효순(82) “서울로 가는 길” 形成社(記)
- 吳貞姬(82; 85) “銅鏡” 해방40년의 문학2所収 民音社(小)
- 우호(86) “옹이라 불리우는 사나이2” 문화당(漫)
- 柳在順(86) “털거벗는女子들” 글수레(記)
- 尹伊桑·장행훈(81) “나의 우아 나의 조국” 음악동아 84.4 東亜日報社(対)
- 이근천(85) “忿개미 1·3” 宇進閣(漫)
- 이명운(84) “창밖의 사람들” 時代, 삶의 表象所収 教音社(戯)
- 李文烈(81; 86) “사람의 아둔” 民音社(小)

- 李容燦 (68) “帽子” 新文學60年代表作品集 6 正音社 (戲)
 李清俊 (85) “해변아리랑” 李箱文學賞受賞作品集1985所收 文學思想社 (小)
 임국희 · 우종범 著음 (84) “마구니에 가득 찬 행복 3” 전예원 (記)
 임 철우 (81; 85) “同行” 해방40년의 문학 2所收 民音社 (小)
 鄭飛石 (76; 83) “愛情不在” 山情無限所收 汎友社 (隨)
 鄭然喜 (85) “蘭芝島” 정음사 (小)
 趙善作 (74; 85) “高匠線” 해방40년의 문학 2所收 民音社 (小)
 趙廷來 (81; 85) “流刑의 땅” 해방40년의 문학 2所收 民音社 (小)
 車凡錫 (68) “성난 機械” 新文學60年代表作品集 6 正音社 (戲)
 최윤갑 · 리세룡 (84) “조선어학사전” 연빈인 민출판사 (研)
 崔仁浩 (71; 85) “他人의 房” 해방40년의 문학 2所收 民音社 (小)
 崔仁浩 (77) “바고들의 行進” 藝文館 (小)
 최준철 (76) “식물의 연구” 금성출판사 (学)
 河有祥 (68) “生活記” 新文學60年代表作品集 6 正音社 (戲)
 황병기 · 조영남 (84) “민중의 에네르기에서 나오는 노래들” 음악동아 84.4
 東亞日報社 (對)
 洪碧初 (39; 85) “林巨正 1 · 2 · 7” 사계절출판사 (小)

参考文献

(1) 日本語で書かれたもの（著者のABC順）

- 安藤貞雄(83) 「英語教師の文法研究」大修館書店

Fillmore, C. J. (75) 田中春美・船城道雄・訳「格文法の原理」三省堂

早川嘉春・他(84—86) 「NHKハングル講座」日本放送出版協会

Helbig, G.・Buscha, J (82) 在間進・訳「現代ドイツ文法」三修社

石原六三・青山秀夫(63) 「朝鮮語四週間」大学書林

菅野裕臣(81) 「朝鮮語の入門」白水社

菅野裕臣(82) 「朝鮮語」「講座日本語学11」明治書院

菅野裕臣(86) 「現代朝鮮語のムードの問題点について」朝鮮語研究会発表要旨

86. 2

菅野裕臣・他(84—86) 「月刊基礎ハングル」三修社

金田一春彦・編(76) 「日本語動詞のアスペクト」むぎ書房

国立国語研究所(85) 「現代日本語動詞のアスペクトとテンス」秀英出版

河野六郎(55) 「朝鮮語」「世界言語概説下巻」研究社

河野六郎(79) 「河野六郎著作集」1—3 平凡社

工藤 浩(82) 「叙事法副詞の意味と機能」「研究報告集3」国立国語研究所

國廣哲彌・編(80) 「日英語比較講座 第2巻文法」大修館書店

國廣哲彌・編(82) 「ことばの意味3」平凡社

- 前間恭作(09) 「韓語通」丸善
- 松本泰丈・編(78) 「日本語研究の方法」むぎ書房
- 水谷静夫・編(83) 「朝倉日本語新講座3 文法と意味!」朝倉書店
- 森田良行(80) 「基礎日本語2」角川書店
- 中右 実(80) "文副詞の比較"「日英語比較講座 第2巻文法」大修館書店
- 奥田靖雄(84) "おしさかり(-)"「日本語学」84.12. 明治書院
- 奥田靖雄(85) "おしさかり(=)"「日本語学」85.2. 明治書院
- 大阪外国语大学朝鮮語研究室・編(86) 「朝鮮語大辞典」角川書店
- 柴田紀男(82) "インドネシア語ジャカルタ方言"「講座日本語学11」明治書院
- 宋枝学(57) 「基礎朝鮮語」大学書林
- 鈴木重幸(72) 「日本語文法・形態論」むぎ書房
- 天理大学朝鮮学科研究室・編(80) 「現代朝鮮語辞典(改訂)」養徳社
- 千野栄一(80) "ことばの芸術と芸術のことば"「講座言語第4巻 言語の芸術」大修館書店
- 塙本 熱(83) 「朝鮮語入門」岩波書店
- 梅田博之(76) 「韓国語!」東京三中堂
- 梅田博之(85) 「N H K ハングル入門」日本放送出版協会
- 梅田博之・村崎恭子(82) "現代朝鮮語(テンス・アスペクト)"「講座日本語学11」明治書院
- 梅田博之・村崎恭子(82) "現代朝鮮語(モダリティー)"「講座日本語学11」明治書院
- 山田小枝(84) 「アスペクト論」三修社
- 梁昊淵(82) 「要説 韓国語文法」高麗書林

(2) 朝鮮語で書かれたもの(著者の가나다순)

- 高永根(65) "現代國語의 叙法體系에 對한 研究"「國語研究」15
- 高永根(76) "現代國語의 文體法에 대한 研究"「語學研究」12
- 高永根・南基心(83) "국어의 통사·의미론" 밤출판사
- 과학·백과사전출판사(79) "조선문화어문법" 과학·백과사전출판사
- 과학원 언어 문학 연구소(60) "조선어 문법 1" 과학원 언어 문학연구소
- 김석득(74) "한국어의 시상"「한글연구」1 연세대학교한글연구소
- 김종태(82) "형태소 「겠」에 관한 연구" 영남대학교대학원석사논문
- 김차근(81) "[을]과[겠]의 의미"「한글」173·4 한글학회
- 羅鎮錫(72) "우리말의 예배 김 연구" 과학사
- 南基心(72) "現代國語 時制에 關한 問題"「국어국문학」55—7
- 南基心(78) "國語文法의 時制問題에 關한 研究" 塔出版社
- 박우숙(87) "임의적 불확실성과 화자의 주관적 선택——"겠"의 화용론"

「한글」 198 한글학회

- 徐正洙 (77) “‘겠’에 관하여” 「말」 2 연세대학교한국어학당
- 徐正洙 (78) “‘ㄹ것’에 대하여” 「國語學」 6 탑출판사
- 成善徹 (76) “‘-겠-’과 ‘-을 것이-’의 의미 비교” 「金亨奎教授停年退任紀念論文集」 서울師範大學國語教育科
- 成善徹 (79) “經驗과推定” 「문제연구」 4 탑출판사
- 신기철·신용철·편저 (74) “새 우리말 큰사전” 三省出版社
- 申昌淳 (72) “現代韓國語의 用言輔助語幹 ‘겠’의 意義外 用法” 「朝鮮學報」 65 朝鮮学会
- 安田吉実·孫洛範·共編 (83) “民衆영 선스 韓日辭典” 民衆書林
- 油谷幸利 (78) “現代韓國語의 動詞分類” 「朝鮮學報」 87 朝鮮学会
- 이경애 (84) “‘겠’의 의미” 「국어국문학」 22
- 李基文 (72) “國語史概說 改訂版” 塔出版社
- 李基用 (77) “점작의 뜻: ‘겠’과 ‘을 것’을 中心으로” 학동 연구발표 논문 요지 ॥ 한글학회
- 李基用 (78) “‘겠’의 重義性 反論” 국어학회 발표
- 李基用 (78) “言語와推定” 「國語學」 6 탑출판사
- 李南淳 (81) “‘겠’과 ‘ㄹ것’” 「冠嶽語文研究」
- 이선경 (86) “서법과 연술행위에 한정 작용——‘겠’과 ‘을 것이’를 중심으로” 「한글」 193
- 李羽燮·任洪彬 (83) “國語文法論” 學研社
- 李廷玟 (75) “言語行為에 있어 서의 樣相構造” 「現代國語文法」 啓明大學校出版部
- 李熙昇·편저 (82) “국어대사전” 민중서원
- 임홍빈 (80) “[~겠-]과 대상성” 「한글」 170 한글학회
- 張京姬 (85) “現代國語의 樣態範疇研究” 塔出版社
- 장만석·김순희 (83) “조선어토지식” 赤龍강조선민족출판사
- 조선 민주주의 인민 공화국 과학원 언어 문학 연구소 사전 연구실 (62) “조선 말 사전” 과학원출판사
- 최윤갑·리세통·편저 (84) “조선어학사전” 연변인민출판사
- 최현배 (37; 71) “우리말본” (비번체 고침) 정음사
- Koncevich, L. R. (71) 莫野裕臣·訳 “蘇聯의 韓國語學” 「亞細亞研究」 71. 6. 高麗大學校亞細亞問題研究所

(3) その他の言語で書かれたもの

北京大学東語系朝鮮語專業·延辺大学朝語系朝鮮語專業·合編 (76) “朝鮮語實用語法” 商務印書館, 北京

- Helbig, G., Buscha, J. (77) "Deutsche Grammatik" VEB Verlag Enzyklopädie Leipzig
- 李廷玟 (73) "The Korean Modality in the Speech Act" 'Papers in Linguistics' 1-2, University of Michigan
- Nam, Won-Sik (83) "Inflectional Suffixes in Korean Verbs" '언어' 83.2
- Palmer, F. R. (79) "Modality and the English Modals" Longman
- Xolodovich, A. A. (54) "Ocherk grammatiki korejskogo jazyka", Moskva

(東京外国語大学大学院生・170 東京都豊島区巣鴨3-9-11, B-41)